



2006 KITE

U S E R M A N U A L

CROSSBOW • CONTRA • REVOLVER • CO2







WARNING

安全のために必要な以下の内容に同意できない場合、この商品の使用を禁じます。また以下の内容は不定期に変更されることがあります。最新の情報をアップデートするために、絶えずカブリナ・カイトサーフィンのホームページ www.cabrinhakites.com をご覧ください。

使用者が18歳以下の場合、両親または保護者に以下の警告やインストラクションに関する項目とユーザーマニュアルを読んでもらう必要があります。レッスンを受け、インストラクターかマニュアルを読んだ者の監督下でしかこの製品を使用できません。

この製品にはその使用に伴い、予期せぬ危険が起こる可能性があります。この製品の使いかんに関わらず、いかなる製品破損や人身事故に関して、使用方法の正否にかかわらず販売店には責任がありません。

カイトサーフィンは激しいスポーツです。パワーカイトやそれにつながるライン、コントロール・エキップメントは、使用者自身や周りの人々に危険をおよぼす可能性があります。カイトサーフィンをを行う際は真剣、慎重に取り組み、経験が浅いライダーはプロのインストラクターや経験豊富なカイトボーダーのレクチャーを受けることをお勧めします。カイトの使用方法が正しくない場合は、ライダー自身や周りの人々に深刻な怪我を負わず、または最悪の場合には死に至らしめる可能性があります。電線や空港、道路の近くではカイトを使用しないで下さい。又、カイトのフライラインが人や物に触れないようにご注意ください。カイトは常に見通しのよい場所でご使用下さい。風や天候に留意し、特に、オフショアやオンショア、強風には注意が必要です。陸上で完全にカイトの操作が出来るようになるまで、水上でカイトを使用しないで下さい。ライダー自身と周囲の人の安全を守るため、カイトの操作に慣れるよう陸上で十分に練習を行って下さい。カイトを使用する際の安全面の責任は全てライダー自身にあるという事を絶えず頭に入れておいて下さい。このスポーツを練習する際には自己の限界に留意し、無理をしないようご注意ください。水上でカイトを使用する際には、安全上必ず保護防具や浮力体を身につけ、カイトとライダー自身をほどけないほどしっかりと繋がないようにして下さい。カイトを飛ぶための道具や浮力体として使用しないで下さい。

カイトサーフィンの練習におすすめする点

カイトサーフィンは色々な種目でレベルに応じて楽しめる多様なスポーツです。しかし、他のスポーツと同様に先天的な回避しがたいリスクも伴います。カブリナカイトを使用する前に、下記の安全上のキーポイントを覚えておきましょう。

- ・カイトサーフィンは危険を伴うスポーツで、カイトサーフィンの使用者は人体のあらゆる箇所に深刻な怪我をする怖れがあることを理解してください。
- ・カイトボーディングをする際に怪我をする危険性は非常に高く、カイトサーフィンを始めようとする使用者はそれを理解しなければなりません。
- ・未成年は必ず監督者のもとでこの製品を使用してください。
- ・初心者はまずレッスンを受けることを強くおすすめします。
- ・使用する前には常にすべてのラインやキャノピー、ブラダー、ネジ、その他全般に擦れや引き裂けの兆しがないかどうかチェックしてください。
- ・擦れや引き裂けの兆しが見られた場合、使用する前にただちにリペアやパーツ交換を行ってください。擦れや引き裂けに関する質問がある場合は、地元カブリナ・カイトサーフィン販売店にお問い合わせいただくか、ホームページ www.cabrinhakites.com をご覧ください。
- ・ライダー自身や他の人が怪我をする可能性がある状態、カイトサーフィンのいかなるパーツを破損する可能性がある状態は絶対に避けてください。安全に自力で岸に帰って来られる状態を保ってください。

次ページへ続く





- 正規販売店で購入した正規製造パーツを使用してください。
- 海の状況やカレント、天気予報などコンディションに関して勉強し、そういった情報を出艇する前に必ず確認してください。オフショアやオンショアでセILINGする際には注意が必要です。
- 初めてのポイントに行った場合、出艇する前にまずはそのポイントに慣れることを心掛けてください。危険なものがないかどうか、地元のライダーに訊ねましょう。
- 遊泳者や小さな子供など、他のビーチ使用者に注意してください。ボードとカイトやラインを常にコントロールできる状態に保ち、ビーチや海上で風に吹かれて飛ばされないようにしてください。
- 常に十分な浮力体をつけてください。ウエットスーツやUV効果のあるトップスなど、適正なスーツを身に付けて出艇してください。ヘルメットの着用を強くおすすめします。
- 絶えず出艇あるいはビーチに戻ってくるタイミングを他の人に知らせながら出艇しましょう。セILINGパートナーをみつけ一緒にビーチにいきましょう。
- コンディションの変化（風が落ちる、風や波が上がるなど）に注意し、変化の兆しが見えたときには、常にビーチに戻ってください。
- ビギナーのうちは自己の限界を超えるコンディションでカイトサーフィンしないでください。
- この製品を改造や変更しないでください。
- この製品は海上でカイトサーフィンすることだけを目的としてデザイン、製造されています。
- この説明注意事項をこれからも参考にできるよう保管しておいてください。





INDEX

- 2 Introduction
- 3 Important Information
- 4 Wind, Water, & Weather Conditions / Wind Range Chart
- 5 Know Your Ability Level / Kiteboarding Location
- 6 Important Information
- 7 Beach Etiquette

KITES OVERVIEW & CONTROL SYSTEM

- 8 Crossbow Overview
- 10 Contra / Revolver / Co2 Overview

- 12 Crossbow CS / Powerdrive Carbon & Alloy CS
- 13 Security Pin
- 14 Bypass Leash

- 15 Crossbow Operation
- 18 Powerdrive Operation

SETUP

- 24 Setup - Crossbow Control System with Override
- 25 Setup - Powerdrive Control System with Frontline
- 26 #1.1 - Check Your Line Length
- 27 #1.2 - Line Length Corrections
- 28 #2.1 - Inflating the Struts
- 29 #2.2 - Inflating the Leading Edge
- 30 #2.3 - Tips for Securing Your Kite
- 30 #2.4 - Deflating the Leading Edge
- 31 #3.1 - Attaching Control Lines
- 32 #3.2 - Downwind Launch Setup
- 33 #3.3 - Upwind Launch Setup
- 34 #4 - Tuning The Kite

- 36 Kiteboarding Basics

HOW TO:

- 36 Area of Operation / Kite Positions, Zones & Power
- 38 Steering
- 39 Planning Your Launch
- 40 Launching & Landing with a Partner
- 42 Relaunching

- 44 Replacing your Flying Lines
- 46 Repairs - Tears / Struts Bladders
- 48 Repairs - Leading Edge Bladders

- 50 Glossary

06

USER MANUAL



06 イントロダクション



新しいカブリナ・カイトのご購入ありがとうございます。そしてカイトボーディングの世界へようこそ。ご存知のとおりカイトボーディングの楽しさは世界中のあらゆる年齢の人々を魅了しています。もっともダイナミックに急成長している新種のスポーツのひとつということがいえるでしょう。

それと同時にしっかりとその特徴を理解し、節度をもって行われなければならないスポーツでもあります。そのためカブリナではこのユーザーズ・マニュアルを配付しています。これは新しいカイトを購入されたライダーの方がカイトに対する知識を広め、安全に使用するために必要なものです。さらにセッティングやメンテナンスなど、新しいカイトを水上で楽しく長い間使っていただくためのインフォメーションも多く記載してあります。

実際にカイトをご使用になる前にこのユーザーズ・マニュアルのすべてのページを熟読してください。このマニュアルはカイトボーディングのインストラクションを目的につくられたというより、補足的な説明をしているのですが、ライダー自身および回りの人の安全のためにも必要なことです。





06 重要な情報

安全に関する重要な情報

カイトボーディングはいろいろな種目で、レベルに応じて楽しめる多様なスポーツです。しかし他のスポーツと同じようにリスクを伴っています。これからカプリナ・カイトを使用する際に覚えておかなければならない、安全上のキーポイントを紹介していきます。

- カイトやタップアウト付フロントライン、オーバーライド、ハーネスループ・クイックシステムといった安全システムに慣れ親しんでください。
- 決められた操作方法に基づいて操作できるよう、オーバーライド・コントロールシステムがオーバーライド対応のカイトにオーバーライド対応コントロールバーシステムとともに装備されていることを確認してください。
- フロントライン対応のカイトはフロントライン対応のコントロールシステムとともに使用するよう、フロントライン・システムを取り付け又は使用する際は必ずマニュアルの指示に従って行って下さい。
- 常に安全システムを取り付けてカイトを用いてください。
- カイトおよびコントロールバー、ラインとライダーを離れないほど強く結ばないでください。
- カイトを飛行目的で使用しないでください。
- 全てのあらゆるラインにテンションのかかった状態で、決してラインに触れないでください。ラインにテンションのかかった状態のカイトに触れないでください。
- 空気の入った状態で使用していないカイトは、必ず砂や何か重い尖っていない物を置いて安全を確保してください。充分と思われる以上に重たい物を置くことをお勧めします。（カイトの取扱い、情報の項参照）ライダーがいなくても空気の入ったカイトは飛ぶ恐れがあるので、充分に自己や周りのものに注意を払ってください。突然カイトが飛行してしまった場合、周りの人に深刻な怪我を与え、死に至らしめる可能性があります。
- 空気の入ったカイトに対する十分な訓練をしていない人に、ギアを貸さないでください。使用者は必ずこのユーザーマニュアルを熟読し、すべての項目に同意する必要があります。
- フライイングラインや安全システム、カイト、ボードなどのギアは、きちんとセッティングされているか、きちんと作動するかなど、海上に出る前に必ずチェックしてください。

安全のためのギア

以下のプロテクション用ギアの使用を強くおすすめします

- ヘルメット
- ライフジャケット、インパクトベストなどの浮力体
- ネオプレン製ウエットスーツ
- グローブ
- ブーツなど足を保護するもの
- 目を保護するもの
- 安全用ナイフ
- 日焼け止め





06 重要な情報

風と海面、天候について

- 風のパワーを過小評価しないでください。
- 不意の天候の変化に気を付けてください。
- オフショアやオンショアのコンディションでカイトボーディングしないでください。
- 強風やガスティブな風でカイトボーディングしないでください。
- 特にビギナーのうちは波のあるコンディションでは注意が必要です。
- 潮の満干やカレントを調べましょう。
- 己のレベルを認知しましょう。自己の限界を超えるコンディションでカイトボーディングしないでください。
- 外気温や水温について前情報を得て、自然要素から身を守りましょう。
- 嵐のなかでこの製品を使用しないでください。
- 必要に応じて風速計を用いましょう。
- オーバーサイズになるカイトを使用するのはやめましょう。風の早分かり表を使い、最適なサイズのカイトを選びましょう。常識の範囲内で無理をせず、サイズの決定に不安が残るときには小さいサイズを選びましょう。
- すべてのカブリナ製品は75kgまでの体重のライダーを対象にデザイン制作しています。

風早見表

170 lbs. (75 kg)のライダーを基準に考えられています。実際にはライダー個々の体重や能力レベル、海面の状況、ボードサイズ、ライディングスタイルなど、あらゆる点が異なりますので、この風早見表は参考資料になるものです。ライダーの経験や一般的常識に基づき、他のライダーが使用しているカイトのサイズを参考にしながら適切なカイトサイズを選んでください。

	4 MPH 3.5 KNOTS	8 MPH 6.9 KNOTS	12 MPH 10.4 KNOTS	16 MPH 13.9 KNOTS	20 MPH 17.3 KNOTS	24 MPH 20.8 KNOTS	+	++	+++
CROSSBOW	16								
	12								
	9								
	7								
CONTRA	19.5								
	16.5								
REVOLVER	14								
	12								
	10								
	8								
	6.5								
CO2	18								
	17								
	14								
	12								
	6.5								

* How to read: Red = best suited for. Pink = usable. White = not recommended.





06

重要な情報

ライダーのレベルの認知 / カイトボーディングに適した場所

ライダーのレベルの認知

- きちんとしたインストラクションなしでカイトボーディングしないでください。
- 一人でのライディングは禁止です。
- ランチングやランディング、ライディングはパートナーと行うか、ビーチで絶えず観察してくれる人が必要です。
- この商品を使用する前に良好な健康状態である必要があります。
- 実際のカイトを飛ばす前に、サイズの小さい『トレーニング・カイト』でカイトを飛ばす練習を行ってください。
- 『トレーニング・カイト』で充分に練習を重ねることによって、より安全に上手にカイト操作を行うことができるようになります。
- この商品を水上または水際で使うためには上手に泳げなければなりません。
- 自己レベルには風と海面のコンディションと大きな関係があるということを理解してください。コンディションに合わせて正しい道具のチョイスをしましょう。
- 泳いで帰れないほど沖ではカイトボーディングしないでください。
- 絶えず体力の温存をはかってください。疲れ切る前にカイトボーディングのセッションを終了してください。
- 実際にカイトボーディングを行う前に安全上の予防策をしっかりと頭に入れておいてください。ランチング、ランディング、フライイングの方法、および水上で使用する際の注意、レスキューの方法など。
- カイトをランチングする前に安全システムを理解しておく必要があります。
- カイトを海の近くで使用する前に、自己レスキューの方法を身につけてください。
- インフレーターカイトを扱ったことがない人にランチングやカイト・キャッチをさせないでください。そういった人や回りの人、ライダーに怪我を負わせてしまう恐れがあります。
- 安全上の責任は全てライダーにあります。

カイトボーディングに適した場所

- 地域の法律や決まり、規則に従い、使用可能な場所での製品を使いましょう。
- 天候やローカルルールについて、地元のライダーの話聞きましょう。
- カイトをランチングさせる前に必ず周囲をチェックしてください。
- この商品を使用するにはランチングやランディングに広いスペースを必要とすることを理解してください。
- カイトを使用する際、ライダーの左右、風下に少なくとも100mのスペースが必要です。特に風下には十分にスペースをとってください。
- 特にランチングする場所では風向きに絶えず注意する必要があります。
- 浅いリーフや飛び出しているリーフ、岩のある場所で行わないでください。
- 潮回りに注意してください。干潮時にはビーチの様子が変わり、今までになかった障害物があらわれる可能性があります。
- 電線や電柱、木、人、ペット、建物、車、道路、尖ったものがある所、空港の近くではカイトを使用しないでください。
- 人の多いビーチや波打ち際は使用しないでください。
- 歩道や人の通る場所にラインが渡らないようにしてください。
- ライダーとカイトの間を他の人が通過しないようにしてください。
- ウインドサーフィンやジェットスキーなどの他のマリンスポーツを行っている人、海水浴を行っている人、浮遊物に対して十分に注意してください。
- ランチングの前には、ランチング場所以外にも安全にランディングできるスペースを確認してください。





06 重要な情報

カイトのケア

エクストリーム性の高い性質を持つカイトボーディングでは、カイトの運搬やセッティングの際にも安全ギアと同様にすべてのギアをしっかりと扱わなければなりません。

セッションの準備

- 安全のための道具（ヘルメットなど）が壊れていないか、確認しましょう。
- カイトやコントロールシステムをこまめにチェックし、空気もれや引き裂け、キャノピーやパテンの擦れ、レコンシステムの異常をいち早く発見するようにしましょう。フライングラインにも擦れやほどけない結び目がないことを確認します。これがフライングラインの寿命に影響を与えます。
- アスファルトやセメント、砂利など、摩擦の大きい所でセッティングするのは止めてください。道具を痛める恐れが多分にあります。砂や芝生の上でセッティングするのが理想です。摩擦の大きい所でセッティングした際に生じたダメージは保証範囲外となります。
- キャノピーを破いたり、パテンやリーディングエッジの空気もれを起こすような、尖ったもののある所でセッティングしないでください。
- フライングラインを尖った物のあるところで広げないでください。
- セッティング中は砂や砂袋でカイトを安全に保管してください。カイトを傷つけるような尖ったものや岩、摩擦を起こすようなものからカイトを遠ざけてください。

セッションの途中で

- 長時間、空気を挿入したカイトを人の手から離れた状態でビーチに放置しないでください。風がシフトしたり風向きが変わることによって、カイトの安全性が保たれなくなり飛んでいってしまう恐れがあります。
- 空気を挿入した状態のカイトを（重りを乗せていても）長時間ビーチで風に吹かれた状態にしないでください。これによってトレーリングエッジが絶えず風に吹かれた状態となり、カイトを痛めたりブライダルやコントロールラインを絡める原因となります。もし長時間ビーチにカイトを置かなければならないときは、パテンやトレーリングエッジなど、カイトの広範囲に砂を乗せバタつきをなくした状態にしてください。
- 長時間、太陽光線のもとにカイトを広げておかないでください。セッションの間にはカイトを安全に保管できる日陰を探してください。使用していないときは片付けましょう。

正しい収納方法

- 真水でカイトを洗い、よく乾かした後、丸めて収納することをお勧めします。
- 濡れているときにカイトを丸めないでください。
- 収納前には異物や砂を取り除き、カイトをきれいな状態にしてください。
- カイトがきれいな状態で完全に乾いたら、購入時に入っていたバッグに入れ、乾いた涼しい所に保管してください。
- カイトが入ったバッグの上に重たいものを置かないでください。
- 空気を挿入したカイトを車の中や車上の収納ボックスに入れたままにしないでください。気温の変化によってカイトが破裂する恐れがあり、これによって内蔵ブラダーは深刻なダメージを受けます。
- 真水を溜めたバケツにコントロールシステム全体（ラインをバーに巻いたまま）を5分つけるという方法で、使用することによってコントロールシステムを洗ってください。その後、完全に乾かしてください。
- コントロールバーが完全にきれいで乾燥した後、購入時に入っていたバックに入れ、乾燥した涼しい場所に保管ください。





06 ビーチでのエチケット

ビーチや海面を他のユーザーと共有するために考えられる基本的なエチケットです。

安全

- このマニュアルの安全について記載されている項目を熟読しましょう。
- 使用ビーチに掲げられている安全やルールに関する看板や掲示物をよく読み、それに従いましょう。
- 新しいポイントでランチングする前に地元のカイトボーディング協会やショップに行きましょう。看板や掲示物がない地元のルールや規則がある可能性があります。
- 一般的な安全認識に従いましょう。
- バーやカイトなど、他の人の道具に許可なく触ったり、チューニングをしたりしないようにしましょう。
- 常にカイトは砂や砂袋を使って安全を保ってください。ライダーが操作していないカイトは危険です。
- 空気を入れた状態のカイトをライダーから離れた所に置かないでください。風向きが変わりカイトが不用意に飛んでしまう危険を避けるためです。

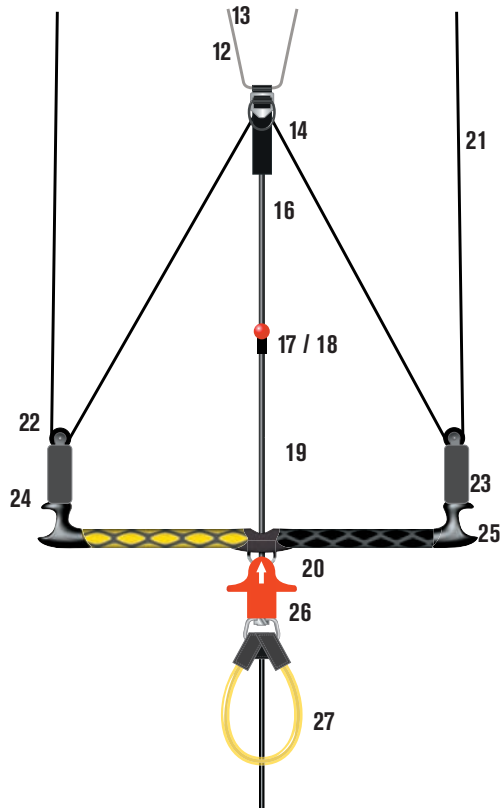
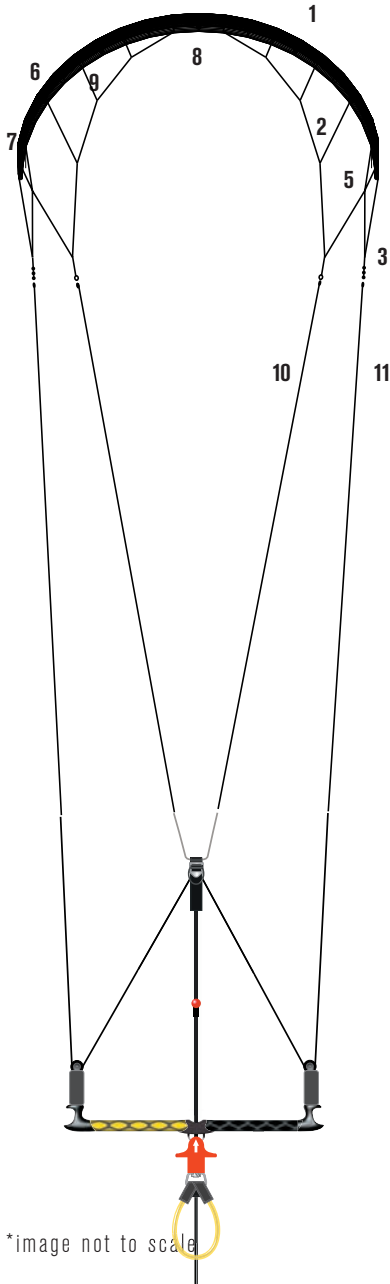
セッティング

- 使う道具だけをセッティングしましょう。使用していないカイトは空気を抜いて、ただちに片付けましょう。
- 十分なスペースがあるところでセッティングしましょう。
- 他のビーチユーザーのことを十分に配慮し、セッティングしましょう。
- 使用時以外はライン類を巻いておきましょう。
- ランチングやランディング、ライディング時には絶えず他のビーチユーザー、海面にいる人のことを配慮しましょう。
- 他のビーチユーザーに譲る心を持ちましょう。
- 常に必要に応じて他のカイトボーダーの助けをかりられるようにしておきましょう。他のカイトボーダーと互いに助け合いましょう。





06 クロスボウ・カイトの概要



*image not to scale





06

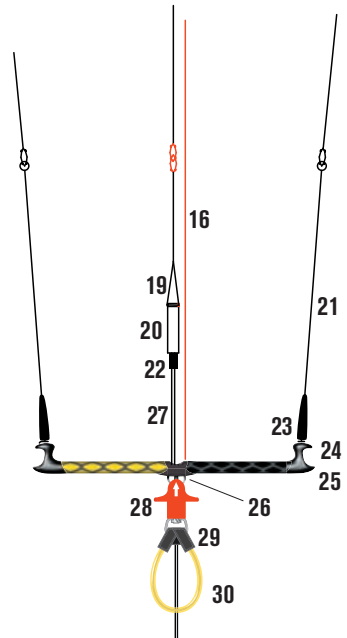
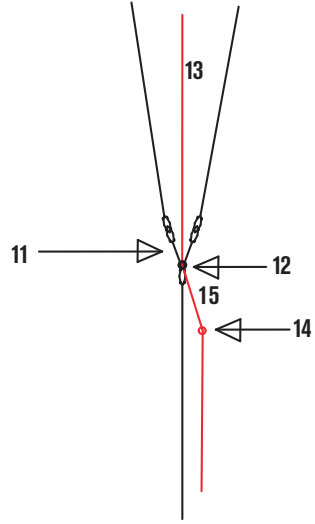
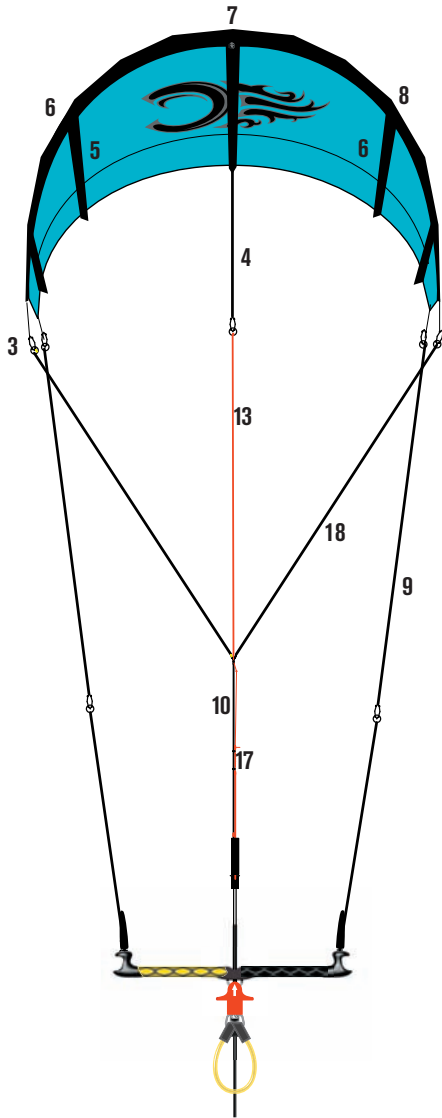
クロスボウ・カイトの概要

オーバーライド搭載のクロスボウCS

1. 4ラインカイトのボディ
2. フライダル
3. ステアリング（リア）ライン接続ポイント
4. デパワー（フロント）ライン接続ポイント
5. プーリー
6. マルチセグメントのダクロン製リーディングエッジ
7. ツールマッチ3Dバテン
8. エアロック・ハイボリュームバルブ
9. スタンダード・インフレーションバルブ
10. フロント・フライイングライン
11. リア・フライイングライン
12. フロント・リーダーライン
13. グラブボール
14. センターライン調節ストラップ
15. パワー／デパワー・エクステンション
16. ラインストップ
17. オーバーライド・ボール
18. オーバーライド・スリーブ
19. デパワー・メインライン
20. パワーロック・ループ
21. リア・リーダー
22. 2-1デパワー・プーリー
23. バーフROOT
24. ラインマネージャー
25. マルチファンクションのバーエンド
26. ハーネスループ・クイックリリース
27. 安全ピン付ハーネスループ



06 クラシックカイトの概要



*image not to scale





06

クラシックカイトの概要

コントラ / レボルバー / CO2

パワードライブ・コントロールシステム付
フロントライン搭載(CONTRA/Revolver/CO2)カイトの概要

1. 4ラインカイト
2. リア・ビッグテイル
3. フロント・ビッグテイル
4. フロントライン・ブライダル
5. ツールーマッチ 3Dバテン
6. マルチセグメントのダクロン製リーディングエッジ
7. エアロック・ハイボリュームバルブ
8. スタンダード・インフレーションバルブ
9. ステアリングライン (リア・コントロールライン)
10. オーバーライド・フロントライン・メインライン
11. デパワーライン接続”V”
12. フロントライン・リング・ガイド
13. フロントライン
14. フロントラインリミッターボール
15. バンジー部分
16. リカバリーライン
17. ベイアウト・リミター・ボール
18. デパワーライン (フロント・コントロールライン)
19. メインライン調節装置
20. センターライン調節ストラップ
21. リーダーライン
22. ラインストッパー
23. バーフロート
24. ラインマネージャー
25. マルチファンクションのバーエンド
26. パワーロック・ループ
27. デパワーライン
28. タップアウト・リーシュ付ハーネスループQR
29. リカバリーライン末リング
20. 安全ピンとフロントライン・ガイド付ハーネスループ





06

コントロールシステムの一般的な概要

(クロスボウCS、パワードライブ・カーボンCS、パワードライブ・アレイCS)

コントロールシステムの一般的な概要

(クロスボウCS、パワードライブ・カーボンCS、パワードライブ・アレイCS)

クイックリリース・システム (QRS)

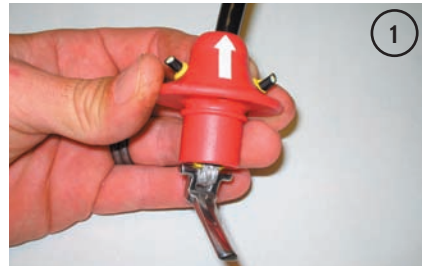
QRSを作動させたい状況に陥ったときにただちに操作できるよう、QRSの操作に慣れ親しんでおく必要があります。

QRS 操作方法

リリースボディを握りカバーされたピンが外れるまで引きます。テンションがかかっている状態の場合、ピンがハネスループからはずれません。(Fig.1)

QRSセッティング/セッティングのほどこ方

- QRピンをステンレス製の台形に通します。(Fig.2)
- ピンを元の場所に戻します。(Fig.3)
- QRボディをデパワーラインまで持ち上げます。(Fig.4)
- QRボディをQRピンに被せます。(Fig.5)
- これでQRシステムは作動する状態になります。





06

コントロールシステムの一般的な概要

安全ピン

安全ピン

ハーネスループはライダーが安全ピンを装備したデパワーステムにのみ接続した場合に使用できます。この安全リーシュは、ライダーがハーネスループにハーネスフックをにかけているときにだけ作動します。そのためハーネスフックとハーネスループがしっかりと接続されていることが重要となります。正常に接続されている場合のみ、ただちにカイトをデパワーさせること、バーを自由に回すこと、簡単にカイトをリランチさせることができると同時に、カイトとライダーが安全に接続された状態となるシステムです。

- 1ただちにデパワーする機能を作動させるためには、クイックリリース (QR) ・ハーネスループにハーネスフックを掛けていなければなりません。
- ループ下のハーネルフックに安全ピンを挿入します。
- ランチングするかあるいはハーネスループに安全ピンが挿入される前に、クイックリリースとコントロールシステムが正常にセッティングされていることを確認してください。
- 安全ピンはランチングの準備ができたときに挿入するか/バイパスリーシュを接続して使用することをお勧めします。

注意：安全ピンが挿入されているとき、ライダーはカイトと半接続状態にあります。安全のため安全ピンを挿入する前に、クイックリリース・ハンドルがどこにあるのか、どのようにすれば作動するのか確認してください。

安全ピン 挿入

- QRとコントロールシステムがきちんとセットされていることをダブルチェックしてください。
- ハーネスフックをハーネルループにかけます。
- ハーネスループにハーネスフックをかければ後は安全ピンを挿入するだけで、ラウンチ準備が完了です。
 - (オーバーライド・システムのみ) オーバーライド・ポールを外します。
 - (フロントライン・システムのみ) タップアウト・リーシュを接続します。
- ハーネスフックのまん中に安全ピンを挿入し、安全ピンはハーネスループの下にあることを確認してください。ハーネスループはハーネスフックと安全ピンの間にあることが、正常に作動するために必要です。
- 安全ピンがきちんと挿入されていることを確認してください。これによってハーネスフックが不用意にハーネスループからはずれることを防ぎます。安全ピンが正常に挿入されていることを確認したら使用開始です。

安全ピン リリース

安全ピンは以下の2つの方法でリリースできます：

- A. 手を使い、ハーネスフックから安全ピンを抜き取ります。
- B. ハーネスループにあるクイックリリース・ハンドルを使用してリリースします。



1

2

5





06 コントロールシステムの一般的な概要

バイパスリーシュ (オプション)

バイパスリーシュ (オプション)
2006年モデルのすべてのカブリナ
カイトにはオプションでバイパス
・リーシュを取付けることができ
ます。これはハーネスループにハー
ネスフックをかけることができ
ない、スクールで練習中や初めて
カイトボーディングに取り組む人
にお勧めの製品です。



バイパス・リーシュを使わずにライディングしようと考えたら、カイトとライダーをつなぐ安全ピンの操作方法
について学ぶ必要があります。

コツ

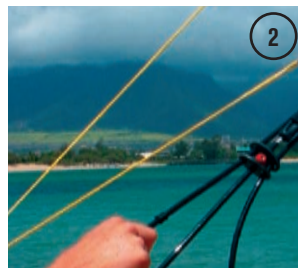
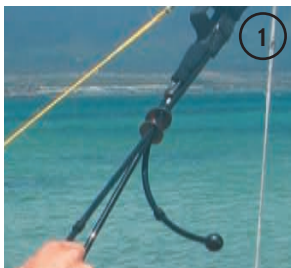
- 海上に出る前にきちんとバイパス・リーシュがつながっているかどうか確認してください。
- カブリナ・カイトをオプションのバイパス・リーシュとともに使用するときは、ハーネスループからハーネスフックを外しただけで、カイトのシャットダウンが作動します。
- バイパス・リーシュを使用しながらハーネスループにハーネスフックをかける場合、最初はハーネスフックをかけないか、ハーネスループのクイックリリースを作動する状態にしてカイトのシャットダウンを行いバイパス・リーシュを使用するかどちらかです。

注意：バイパス・リーシュをオーバーライド・コントロールシステムと併用してライディングするとき、QRSをリリースするとカイトとライダーが離れることとなります。CASの上に離れないようなリーシュをつけたオーバーライドCSは、ライダーが左フロントラインに接続されたままになります。

センターライン調節ストラップ (CAS)

すべてのカブリナのコントロールシステムにはCASが付属しています。操作方は“引く”ことです。この動作によってフロント (デパワー) ラインの長さを変えることができます。

- (クロスボウCS) デパワーするためには黒いボールを引く
- (クロスボウCS) パワーを増やすためには赤いボールを引く
- (パワードライブCS) デパワーするためには低い位置にあるハンドルを引く
- (パワードライブCS) パワーを増やすためにはCASにあるプラスチック製の大きなループを引き下げる





06 コントロールシステム - クロスボウ

オーバーライド搭載クロスボウCS

概要

オーバーライド搭載のクロスボウ・コントロールシステムの最大の利点は、コントロールバーをオーバーライド・モードにすることによってただちに、完全にデパワーできることです。コントロールバーをオーバーライドポールを通してリリースすることによって、カイトはただちにデパワーし上空から落ちます。クロスボウではカイトを安全のために機能させるうえで余分な操作は必要ありません。マニュアルに沿って何か動作をする必要がないのです。カイトボーディングの歴史において唯一、ライダーが完璧にカイトをコントロールしきるシステムなのです。

リランチ

クロスボウには独自のブライダルが搭載され、海上でライダーがリアラインを左右に引くだけでリランチするようデザインされています。レコンと同じように、ウイングチップが水面から上がるので、ライダーは安全なサイド・ランディングの位置にカイトを移動することができます。余分な5本目のラインを加えたりウイングチップに付属品を加えることなく、この機能が実現したのです。

オーバーライド ハーネスフックをかける

安全システムはライダーがハーネスループにハーネスフックをかけていてもなくても作動します（リッシュが接続されていれば）。ハーネスフックをかけた状態をライダーが望む場合は、安全ピン付カブリナ・ハーネルループを使用してください。

オーバーライド ハーネスフックをかけない

安全システムはライダーがハーネスループにハーネスフックをかけていてもなくても作動します（リッシュが接続されていれば）。ハーネスフックをかけない状態をライダーが望む場合は、カブリナ・バイパスリッシュをハーネルループに接続してください。

- ハーネスにバイパスリッシュを接続する
- ハーネスループにクリップを接続する



注意：バイパス・リッシュをオーバーライド・コントロールシステムと併用してライディングするとき、QRSをリリースするとカイトとライダーが離れることとなります。CASの上に離れないようリッシュをつけたオーバーライドCSは、ライダーが左フロントラインに接続されたままになります。





06

コントロールシステム - クロスボウ

オーバーライド搭載クロスボウCS

オーバーライドの操作方法

オーバーライド・システムはライディング中でもライダーの希望に応じ、バーをオーバーライドポール/スリーブの先に移動することによって、ただちにカイトのパワーをなくすことができる装置です。ランチング時にはオーバーライド・ポールをエンゲージにしない状態しておくことをお勧めします。

注意：オーバーライド・ポールは充分にカイトをデパワーすることなくローテーションした後にバーのスピンを解除



することができる、便利なアイテムです。大量の負荷がかかった場合、バーはオーバーライド・ポイントの先に移動します。

操作方法：

ただちにデパワーする必要がある場合、バーをオーバーライド・ポールの先まで移動させてください。カイトはただちにデパワーすると同時に上空から落下します。

安定したライディングを始めるときは、ただコントロールバーを握り、ハーネスに体重をかけます。

注意：バーをハーネスで引くと、カイトはただちにパワーアップし飛行を続けます。フルパワーになる前にパワーウインドゥの位置にカイトを移動しないようご注意ください。カイトが水上にある場合、下記の“オーバーライド・システムによるリランチ”の項にある技術面を活用してください。



オーバーライド・ポールをリセットするには

- デパワー・メインラインを手に取りオーバーライド・ポールを握ります。
- オーバーライドをオーバーライド・スリーブまで引き下げます
- ポールを元の位置に戻します。

注意：デパワーラインを引く時にはハーネスループからハーネスフックが外れていることを確認してください。安全ピンや外付けのリーシュが取り付けられていることを確認してください。

ローテーションの後のバーのねじれを直すには：

- バーがオーバーライド・ポールから外れた状態にしてください。
- バーのねじれを解除します
- バーを握りハーネスに体重をかけます。

注意：オーバーライド・ポールは充分にカイトをデパワーすることなくローテーションした後にバーのスピンを解除することができる、便利なアイテムです。大量の負荷がかかった場合、バーはオーバーライド・ポイントの先に移動します。





06 コントロールシステム - クロスボウ

オーバーライド搭載クロスボウCS

オーバーライド・ボール/スリーブを移動させる方法

オーバーライドの長さは個々のライダーの好みによって調節できます。

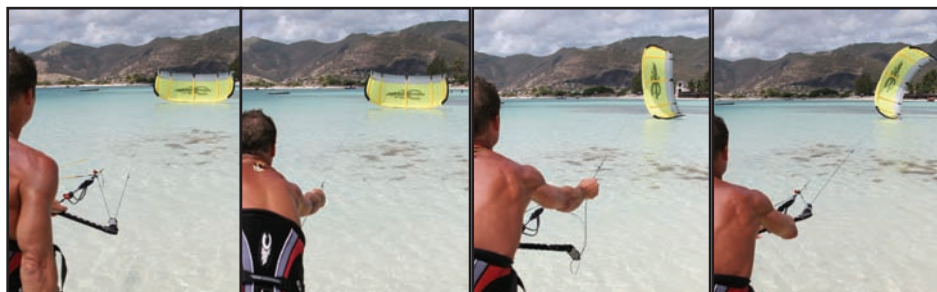
- オーバーライド・スリーブにあるネジを緩めます。
- 希望の位置までスリーブをスライドさせます。
- ネジを絞めます。ネジは強く絞め過ぎないでください。

注意：オーバーライド・システムはデパワーのために35cmにセットして販売されています。これはバーをスピンさせることとデパワーする性能の両方を兼ね備えた位置です。デパワーの長さを35cm未満にする場合は自己の責任において行ってください。

オーバーライド・コントロールシステムを使ったリランチ

デパワーする性能が高いカイトは同時にすばやくリランチできる性能も備えています。カイトのリーディングエッジが水面に落ちてしまった場合、以下のステップを行うことによってサイド・リランチの位置にカイトが自動的に移動します。

- リア（後ろ）リーダーラインはリランチ用ラインの役割もします。
- リアリーダーラインを持ち、ライダーの身体方向にラインを引きます。ウイングチップを水面から浮かせるためには数メートルラインを引く必要があります。注意：手にリーダーラインを巻き付けたり、身体にラインが絡まないようにしてください。
- 身体の前にあるボードに足を乗せておくと、ライダーが前に進む動きが緩和されます。
- 一方のウイングチップが浮くようにカイトが動きます。
- カイトが横向きになると、カイトはエッジオブウィンドウに移動し始めます。カイトがリランチ状態になるまで一度握った方のリーダーラインを握り続けます。この動作はカイトの移動をサポートすることになります。
- カイトのリランチの準備が完了したらリーダーラインを離し、ゆっくりと操作してカイトを上空へ上げてバーを水平に持ちます。
- ライディングできるようになったら、オーバーライド・ボールを再びセットしてください。



クロスボウを使ったセルフレスキュー

クロスボウ・デパワーはライダーに最大のデパワー性能と安全を供給するシステムです。しかし万が一に備えてカイトを畳むセルフレスキューの知識を持ちましょう。

スライディングリーダーにある“クラブボール”をこういったケースのために装備しています。ライダーの希望に応じてリーシュを取り付けることも可能です。リーシュをつける場合は、“スピニング・リーシュ”を用いることをお勧めします。

カイトを畳むのは以下の状態のときです：

- CAS上の赤いボールを握ります。
- コントロールバーを離します。
- セルフレスキューの手順のとりにかかります。





06

コントロールシステム - パワードライブ

タップアウト搭載フロントライン安全とリランチのシステム

概要

タップアウト搭載のフロントライン・安全とリランチのシステムは、最新のアークから従来のアークのカイトまで、あらゆるアークのカイトをもっとも簡単に安全にデパワーさせるシステムです。このノーズ・デパワーのシステムはすべてのコントラ、レボルバー、CO2に標準装備されています。

タップアウト

タップアウトはランチングや地上で使用するようデザインされた安全システムで、地上でカイトを飛ばす時の危険を軽減するものです。タップアウトを使えばライダーの希望に応じ、カイト方向にコントロールバーを押すことによって、カイトを完全にデパワーすることができます。フロントラインに過重が伝わるとただちにカイトがデパワーするように作動します。ライダーはこのシステムに内蔵されているリーシュによってデパワーされたカイトと繋がった状態を保ちます。

アンフック・モード

フロントラインの機能はカイトをデパワーさせるためにハーネスフックを外しているときに作動します。フロントライン・リングにつながるハンドル・パス・リーシュによってつながっていますが、ハーネスをかけていないときにライダーがバーから手を離すことによってカイトはデパワーします。カイトのこのモードを終了したいときでも、接続し直す箇所はありません。ただバーを握りラインのねじれを取り除けば再びランチングすることができます。

手動による操作

手動リリースハンドルを持ち上げると、ライディング中やいかなるときでも、フロントライン・システムが手動でカイトをデパワーします。

リランチのサポート

フロントライン・リランチ・サポートは落下したカイトを数秒で簡単にリランチできます。カイトがリーディングエッジを下にして水上や雪上に落ちた場合、カイトの向きを変えるためにフロントラインを引きます。その後、一方のリア（後ろ）リーダーラインを引くことによって、簡単にカイトをサイド・リランチの位置に移動することができます。

フロントライン ハーネスフックを使用する場合

フロントライン安全システムは、ライダーがハーネスをかけていないに関わらず作動します（リーシュを接続の場合）。ライダーがハーネスを使うモードを選択する場合は、安全ピン付カプリナ・ハーネスループを使用しなければなりません。手動QRが働いたときでも、ハーネスループとフロントラインがつながった状態を保ちます。

タップアウト・リーシュ

フロントラインには従来のリリース手順からワンステップ手順を省いた、重要な安全に対する特徴があります。新しいタップアウトでは、ただちにデパワーする機能をコントロールバーを押すだけで作動することができます。

このシステムによってライダーはライディング中にタップアウト・リーシュの使用によりカイトのパワーをただちになくすことができます。そのときライダーはデパワーしたカイトとライダーに取り付けられたリーシュによってつながれています。

タップアウト付フロントラインはランチングやランディング、ライディング中のいかなる状態のときでも自動的にリリースする安全機能をライダーに提供します。このシステムはパワーロック・ループにタップアウト・リーシュを取り付けるだけで作動するようになります。

ライダーが水上で安全なときにタップアウト・リーシュの接続を解くことができます。

ただちにデパワーできる機能はどんな時でも、カイト方向にリリースハンドルを持ち上げることによって作動します。





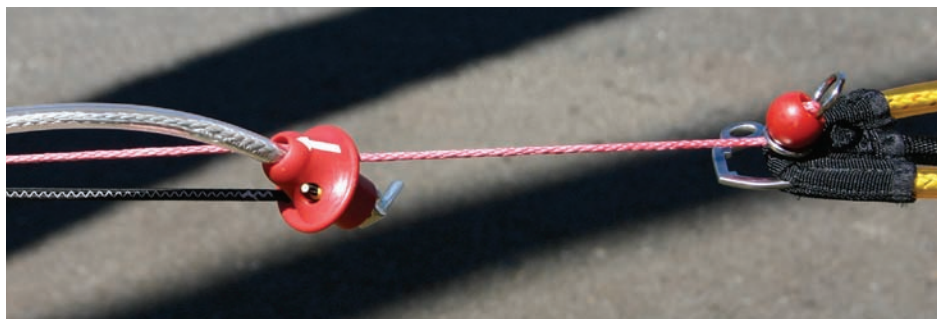
06

コントロールシステム

フロントラインの操作方法・タップアウト

タップアウト ラUNCH・モードで使用の場合

1. ラUNCH・モードでただちにデパワーする機能を作動させるためには、QRが作動するまで、身体からバーを離すことです。
2. これによってハーネスループ上のタップアウトのクイックリリースがはずれます。
3. タップアウト・クイックリリースが作動したら、コントロールシステムはフロントライン・リカバリーラインをスライドしながら上ります。
4. これによってライダーはノーズラインのみで接続されます。
5. カイトは十分にデパワーし水面に向かって空から落下します。





06 コントロールシステム

フロントラインの操作方法 - タップアウト

タップアウト ライド・モードで使用の場合

1. ライディング中にただちにデパワーする機能を作動させるためにはセンターライン・ハーネスループの上にあるハーネーループ・クイックリリースを押します。
2. これによってハーネスループがデパワーラインから外れます。
3. タップアウト・クイックリリースが作動したら、コントロールシステムはフロントライン・リカバリラインをスライドしながら上ります。
4. これによってライダーはノーズラインのみで接続されます。
5. カイトは充分にデパワーし水面に向かって空から落下します。



水上でフロントラインを作動した場合、セルフレスキューの手順に従い岸に泳いでください。フロントラインを再セットして（“フロントラインのリセット”の項を参照）希望によってセッションを終了します。ただしこれは中級から上級レベルのライダーに可能な手順です。ランディングの際にフロントラインシステムを作動する場合は、パートナーに手伝ってカイトを岸でしっかりと確保してもらい、フロントラインをリセットし、ラインをコントロールバーに巻いてください。

注意：フロントライン・システムはカイトをランディングする際や緊急事態にのみ使用するようデザインされています。

注意：カイトはフロントラインを手動でリセットするまでは飛行できません。（“フロントラインのリセット”の項を参照）





06

コントロールシステム

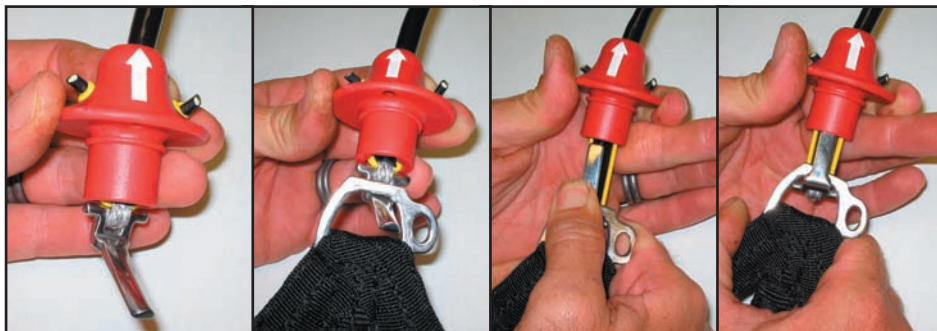
フロントラインの操作方法・フロントラインのリセット方法

フロントラインのリセット方法

セッション終了時にコントロールバーにラインを巻く前にフロントライン・システムをリセットする必要があります。フロントラインは水上でもリセットできますが、これは中級から上級レベルのライダーにのみ可能な作業です。

フロントラインをリセットするための説明（地上にて）

1. ハーネスループがQR本体に戻った状態になるまでコントロールバーに通したリカバリーラインを引きます。
注意：リーダーラインやフライングラインなどを手に巻かないでください。
2. リリースピンをハーネスループにあるリリース台形に挿入します。
3. リリース台形を通してリリースピンを持ちます。
4. リリースピンがQR本体の底にしっかりとハマるよう、QR本体を持ち上げます。
5. QR本体を離しスライドしながらリリースピンに被せます。
6. QR本体がリリースピンに被さっていることを確認してください。注意：QR本体がしっかりと元の位置に戻っていない場合にはリランチしたときにハーネスループが外れてしまうので、この過程は重要です。
7. フロントライフ・ン・リリースシステムはこれでリセット完了です。
8. これで海上でカイトを使用することも、コントロールバーにラインを巻き付けこともできるようになります。



フロントラインをリセットするための説明（水上にて）：

1. QRハーネスループにハーネスフックをかけたまま、泳ぐなどしてリカバリー・リーダーラインを引きながらコントロールシステムに向かいます。注意：フライングラインが身体に巻き付かないよう注意してください。
2. QR本体を握ります。注意：リーダーラインやフライングラインを手に巻かないようにしてください。
3. ハーネスループの上にある台形にリリースピンを挿入します。
4. リリース台形を通してリリースピンを持ちます。
5. リリースピンがQR本体の底にしっかりとハマるよう、QR本体を持ち上げます。
6. QR本体がリリースピンに被さっていることを確認してください。注意：QR本体がしっかりと元の位置に戻っていない場合にはリランチしたときにハーネスループが外れてしまうので、この過程は重要です。
7. すべてのラインを正しい位置に戻るまで、バーに通した状態でリカバリーリーダーをスライドします。注意：作業中はリカバリーリーダーがどこにあるか絶えず気をつけてください。身体やボードにラインが触れないよう注意してください。
8. フロントライン・リリースシステムはこれでリセット完了です。
9. これで海上でカイトを使用することができます。さらにトラブルに見舞われたときに備えて、QRSを引く用意をしてください。





06

コントロールシステム

フロントラインの操作方法・フロントライン・システムを用いたランチング方法

フロントライン・システムを用いたランチング方法デパワーする性能が高いカイトは同時にすばやくリランチできる性能も備えています。カイトのリーディングエッジが水面に落ちてしまった場合、以下のステップを行うことによってサイド・リランチの位置にカイトが自動的に移動します。

1. フロントライン・リカバリーラインはリランチ用ラインの役割もします。
2. リカバリーリーダーラインを持ち、ライダーの身体方向に引きます。ウイングチップを水面から浮かせるためには数メートルラインを引く必要があります。注意：手にリーダーラインを巻き付けたり、身体にラインが絡まないようにしてください。



3. カイトが一方のウイングチップが浮くように動きます。
4. カイトが横向きになると、カイトはエッジオブウインドゥに移動し始めます。カイトがリランチ状態になるまで一度握った方のリーダーラインを握り続けます。この動作はカイトが移動するのをサポートすることになります。
5. カイトのリランチの準備が完了したらリーダーラインを離し、ゆっくりと操作してカイトを上空へ上げてバーを水平に持ちます。
6. ライディングし始め、フライイングラインにテンションがかかったら、リカバリー・リーダーをリセットしてください。





SETUP ▶





06

セッティング

オーバーライド搭載クロスボウCS

オーバーライド付クロスボウのコントロールシステム
クロスボウ・コントロールシステムはクロスボウ・カイトのためだけにデザインされたコントロールシステムです。



含まれるもの

- エンドフィッティングとパワーロック・ループ付コントロールバー
- QRS付デパワーライン
- オーバーライド・ボール
- オーバーライド・スリーブ
- デパワー・プーリー内蔵のパーフフロート
- 安全ピン付27cmのハーネスループ (23cm、30cm、33cmがオプションあり)
- リーダーライン2本 (イエロー=左、ブラック=右)
- パワー調節エクステンション付センターライン調節システム
- 緊急用シャットダウン・ボール

コツ

- ライダーがハーネスフックを外しているときにカイトがパワーを保っているうえ、パワーを持ち過ぎないように、カイトはチューニングされています。
- センターライン調節ストラップを使うことによってカイトのパワーはライダーが調節できます。
- 4ラインカイトのチューニングに関する詳しい説明は4ラインカイトのチューニングの項を参照ください。





06

セッティング

フロントライン付パワードライブCS

フロントライン付パワードライブのコントロールシステム
パワードライブ・コントロールシステムは4ラインカイトのためのコントロールシステムです。



含まれるもの

- エンドフィッティングとパワーロック・ループ付コントロールバー
- QRS付デパワーライン
- 安全ピン付27cmのハーネスループ（23cm、30cm、33cmオプションあり）
- リーダーライン2本（イエロー=左、ブラック=右）
- センターライン調節システム
- バーフロート

コツ

- ライダーがハーネスフックを外しているときにカイトがパワーを保っているうえ、パワーを持ち過ぎないように、カイトはチューニングされています。
- センターライン調節ストラップを使うことによってカイトのパワーは自分で調節できます。
- 4ラインカイトのチューニングに関する詳しい説明は4ラインカイトのチューニングの項を参照ください。





06 セッティング1

ラインの長さのチェック

1.1 ラインの長さのチェック

2006年のコントロールバーにはフライングラインがセットされていますが、それでも海上に出る前にラインの長さをチェックすることをお勧めします。下記の手順で行ってください：

注意：フロントラインとオーバーライド・コントロールシステムは、以下の同じ手順で調節できます。

- シート（ロープやコード）の切れ端などを木やフェンスの杭などに巻き付けます。
- シートの端が余るように、シートを木や杭に結び固定します。
- 杭の所からフライングラインを伸ばし、バーから杭を見て、黄色のコントロールラインが左に、黒のコントロールラインが右になるよう、コントロールバーを上向きに地面に置きます。バーと杭の間に障害物がないことを確認してください。フロントラインは4本のコントロールラインの真ん中に置くようにします。
- フライングラインにねじれや交差がないことを確認してください。
- フライングラインの端（杭側）を見ると、リア（後ろ）ステアリングラインとフロント（前）デパワーラインにアイレットがあることが分かります。フロントデパワーラインの端には結び目もあり、これはカイトと正常に接続するために必要なものです。
- 杭に結びつけたシートをすべてのラインのアイレットに通します。この時、黄色のラインは左側、黒のラインは右側の位置を保つようご注意ください。
- すべてのラインが輪の内側にある状態で、シートをもやい結びにします。
- コントロールバーの所に戻ります。
- カイトをフルパワー仕様でセッティングするために、センターライン調節ストラップが完全に伸ばされていることを確認してください。
- 杭とまっすぐになるように立ち、後ろに体重をかけながら強くコントロールバーを引きます。
- その際、コントロールバーは肩の高さに、地面と平行になるように持ってください。
- 力を加えているときにすべてのラインに均等に力がかかっていなければなりません。（デパワーラインにもステアリングライン、フロントラインにもたたるみがない状態）
- コントロールバーを左右平行に引くことができれば、コントロールシステムはインフレーターブルカイトに取り付けることができます。



コントロールバーが平行に引けた場合は、次のステップ：ステップ2-パテンへの空気挿入に移ります。

平行に引けない場合は、ステップ1.2-ラインの長さの指示に従ってください。





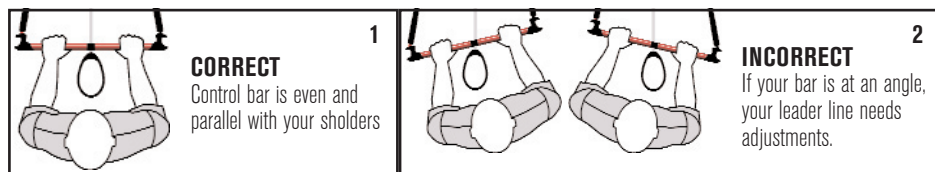
06 セッティング1

ラインの長さの調節

1.2 ラインの長さの調節

調節はリーダーライン上にあるノットを移動させることによって行います。すべてのフライイングラインの長さを均等にすることが目標です。フロントライン・コントロールシステムを使用する場合には、フロントラインも同じ長さになるように調節します。

- ステアリングラインの1本が長過ぎる場合はノット（ライン上の長い側のバーエンド内側にあります）を緩め、コントロールバー方向に移動させます。
- ステアリングラインの1本が短すぎる場合はノット（ライン上の短い側のバーエンド内側にあります）を緩め、カイト方向に移動させます。
- ノットを縛り直し、再びラインの長さをチェックします（図1）。コントロールバーが均等になるまで、調節を続けます。
- フライイングラインに結び目をつくらないでください。フライイングラインに結び目をつくると、ラインの寿命が短くなります。ノットはリーダーラインに作るようにして下さい。
- センター（デパワー）ラインが不均等な状態になることはめったにありませんが、もし不均等になった場合は、センターリーダー・アセンブリー（集まり）にあるノットによって調節します。イエロー付のデパワーラインが長い場合、左のセンターラインにあるノットをコントロールバー方向に移動させます。同じデパワーラインが短いときには、ノットをコントロールバーから遠ざけてください。ブラック付のデパワーラインが長い場合、右のセンターラインにあるノットをコントロールバー方向に移動させます。同じデパワーラインが短いときには、ノットをコントロールバーから遠ざけてください。
- 調節が完了したらバーの所に戻り、4本すべてのラインが均等であり、バーのバランスがとれているかどうかチェックしましょう。



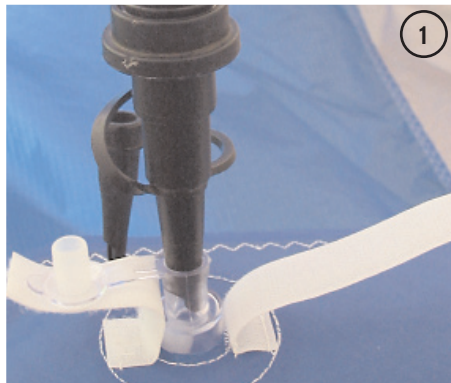


06 セッティング2

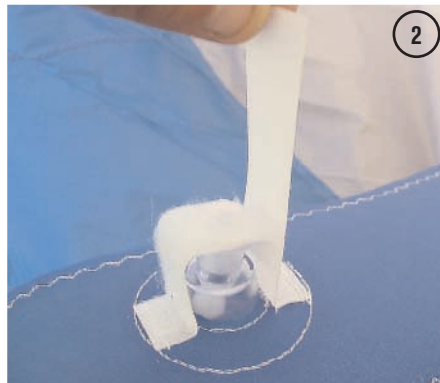
カイトへの空気挿入

通常の空気挿入

カイトのケアに関する項を、実際にカイトに空気を挿入する前に参照してください。バテンが上を向く方向でカイトを広げます。



バルブの角度と垂直になるようにポンプを持ちます。片手でバルブをしっかりと固定し、もう片方の手でポンプ操作を行います



全てのバテンバルブにベルクロカバーをしっかりとかけます。

- 背中を風上に向け、カイトのリーディングエッジを身体の近くに保持します。空気をいれていない場合でもウイングチップに砂を乗せるなど、安全に気を配ってください。
- 最初に中央のバテンから空気を挿入します。さらにそれをはさむ2本のバテン、その後両側のバテンに空気を入れます。
- 空気を入れるときはカイトのバルブに垂直になるよう、ポンプを持ちます。片手でバルブをしっかりと持ち、残りの手でポンプの操作を行います(図1)。これによって内蔵ブラダーの動きをサポートします。
- 全部のバテンに空気を入れ終わったら、内蔵ブラダーが正しく並んでいることを確認してください。
- リーディングエッジの端まで十分に空気が行き渡っていることを確認します。内蔵ブラダーがきちんと並び、端まで行き渡っていることを手で触って確認してください。
- それぞれのバテンにさらに十分な空気を送り込みます。
- バテンが十分に膨らんだら、バルブプラグがバルブにきちんと入っていること、ベルクロがそれぞれのバルブをきちんとカバーしていることを確認します。
- バテンに必要な以上に空気を送り込まないでください。内蔵ブラダーを傷つける恐れがあります。バテンは触ってみて硬く感じられる程度で十分に膨らんでいます。
- バテンには十分に空気を入れてください。空気の挿入が足りない場合はパフォーマンスの低下とリランチ時に問題が生じる可能性があります。





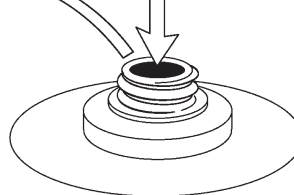
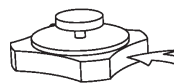
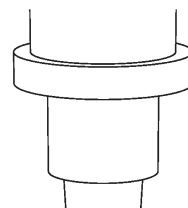
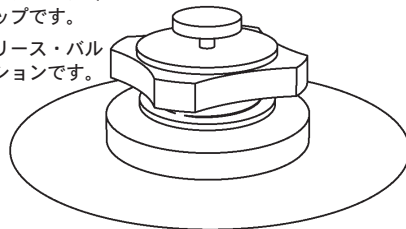
06 セッティング2

リーディングエッジへの空気挿入

リーディングエッジへの空気の挿入
 全てのカブリナカイトは高ポリウレームのエアロックバルブとリーディングエッジ・ブラダーにも付いている通常のバルブの2つからなります。エアロックバルブはカイトへの空気挿入と空気を抜く時に使います。通常のバルブはエアロックバルブのねじれを防ぐための2次的なバルブです。

上部はインフレーション・キャップです。

下部はリリース・バルブのセクションです。



- リリース・バルブは時計回りにチューニングすることによって硬く閉まるつくりになっています。カイトを膨らませていない場合にバルブを締め過ぎないように注意してください。ブラダーを破損する恐れがあります。
- 通常のバルブとベルクロカバーがしっかりとしまっていることをブラダーに空気を挿入する前に確認してください。
- インフレーション・キャップを開けるためには時計回りと反対にひねってください。ポンプ（カブリナポンプに付随しているアダプターを使用してください）を挿入し、リーディングエッジを膨らませます。
- リーディングエッジが十分に膨らんだら、ポンプバルブをはずし、インフレーション・キャップをねじ込んでください。インフレーション・キャップを右回しでしっかりと閉めます。
- リーディングエッジには適度に空気を入れてください。適度な状態では、多少困難ではありますがカイトの端を曲げることが可能です。簡単にカイトのウイングチップを曲げることができる場合は、十分に空気が入っていない状態です。十分に膨らんだカイトはさかさまにすると、ウイングチップが上空に上がろうとし、カイトが弓形の形状を保とうとします。リーディングエッジに空気が足りないと、十分なパフォーマンスやリランチの機能に問題が起こります。すべてのカイトは450mBの空気圧でテスト済みです。
- リーディングエッジに空気を送り込んだら、カイトを裏返しにして砂などを乗せて固定します（セッティング ステップ2.3の“カイトを安全に保つコツ”の項を参照ください。



十分に空気を送り込んだカイト



空気が足りないカイト





06 セッティング2

リーディングエッジから空気を抜く方法

ステップ2.3 カイトを安全に保つコツ

空気を挿入しどこかに結んでいないカイトを長い時間、ビーチに置かないでください。風向きがシフトする可能性があり、カイトが飛ぶなど、安全でない状態になります。

- 砂を乗せるなど、必要だと感じる以上に重いものを乗せてください。人が操っていないカイトは危険です。
- 岩や尖ったもの（ボードを含む）をカイトの重りに使わないでください。これはカイトの寿命を縮める行為です。砂浜でカイトしない場合、砂袋の用意をお勧めします。
- 風が吹いているなかで、カイト（重りをしていてもいなくても）を置き去りにしないでください。これによってカイトのトレーリングエッジが風によってバタつき、コントロールラインのからみやカイト本体のダメージを引き起こします。風の吹くビーチにカイトを置いておく場合、パテンの間全部やトレーリングエッジの近くに多くの砂を乗せ、バタつきを最小限に抑えてください。それが不可能な場合は、ブランケットに入れてください。
- 他のビーチユーザーのことを絶えず考え、カイトやラインを他の人に対して危険がない状態に保ってください。
- 使用していないときはラインをバーに巻いてください。これによってラインがビーチに伸びた状態をさげ、他の人がラインにからまるのを防ぎます。



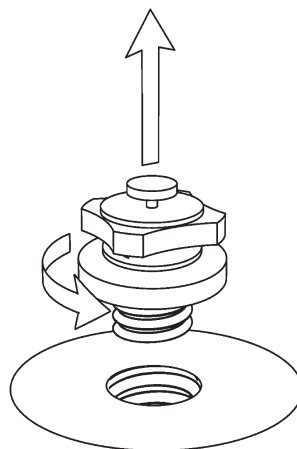
ステップ2.4 リーディングエッジから空気を抜く方法

リーディングエッジから空気を抜く場合には、リリースバルブを回さなければなりません。インフレーションキャップを回しても空気は抜けませんのでご注意ください。リリースバルブはエアロックの下にあります。

空気を抜いた後、バルブについた砂や汚れを取ります。収納前にバルブを閉め、内蔵ブラダーを内側に畳み込んでカイトを折り曲げ収納します。

重要な注意

空気を抜いたカイトのバルブを閉めるためには、ブラダーのねじれを取り除き、正しい位置に置く必要があります。空気を抜いたカイトのバルブをきつく閉め過ぎないでください。再びカイトをふくらませる場合にバルブがきつくしめます。





06

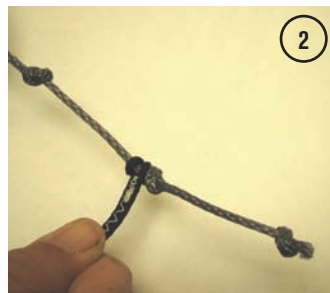
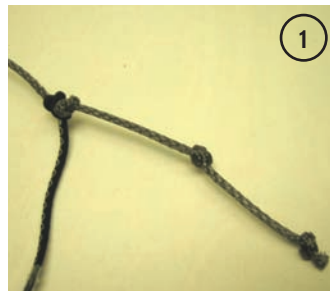
セッティング3

接続とランチング・コントロールラインの接続

ステップ3.1 コントロールラインの接続

ステップ1と2を終了した後、空気を挿入したカイトにコントロールシステムを取り付けます。

- ラインを地面に伸ばして置いた後、コントロールバーから一番離れたフライイングラインの端にカイトを持っていきます。カイトを持つ際、リーディングエッジを風上に向けて持ちます。
- カイトを砂や砂袋で固定します。尖ったものでカイトを固定しないでください。
- (クロスボウCS) ブライダルの接続部分が4ヶ所あります(両側のウイングチップに2ヶ所ずつ)。リア(後ろ)ブライダルには3つのノットがあり、フロント(前)ブライダルにはラクヘッドのループがそれぞれあります。リアブライダルの中央のノットを使います。他のノットは異なった事柄に使用します。
- (パワードライブCS) ブライダルの接続部分が4ヶ所、フロントライン・ブライダルにも接続箇所があります(両側のウイングチップに2ヶ所ずつ)。リア(後ろ)ブライダルには3つのノットがあり、フロント(前)ブライダルにはラクヘッドのループがそれぞれあります。フロントライン・ブライダルにはラインを取り付けるためのノットが1ヶ所あります。リアブライダルの中央のノットを使います。他のノットは異なった事柄に使用します。(図2)
- (パワードライブCS) フロントラインにまず取り付けます。他のラインがまっすぐに接続されていることを確認できるので、フロントラインを取り付けることを忘れないようにしてください。赤いラクヘッド・ループを使いフロントライン・ブライダルの端と接続します。ノットがしっかりと結ばれていることを確認してください。
- イエロー付のデパワー(センター)ラインにあるノットをカイトの左ウイングチップにある黄色いブライダルのラクヘッド・ループに通します。ノットがしっかりと結ばれていることを確認してください。
- フライイングラインにあるラクヘッド・ノットを使い、イエローのステアリング(外側の)ラインとカイトの左ウイングチップにイエローのブライダルを接続します。ノットがしっかりと結ばれていることを確認してください。
- 黒付デパワー(中央)ラインにあるノットをカイトのウイングチップにある黒いブライダルのラクヘッド・ループに通します。ノットがしっかりと結ばれていることを確認してください。
- フライイングラインにあるラクヘッドを使い、黒いステアリング(外側の)ラインとカイト右ウイングチップにある黒いブライダルを接続します。ノットがしっかりと結ばれていることを確認してください。



注意：“カイトの概要”を参照してください。





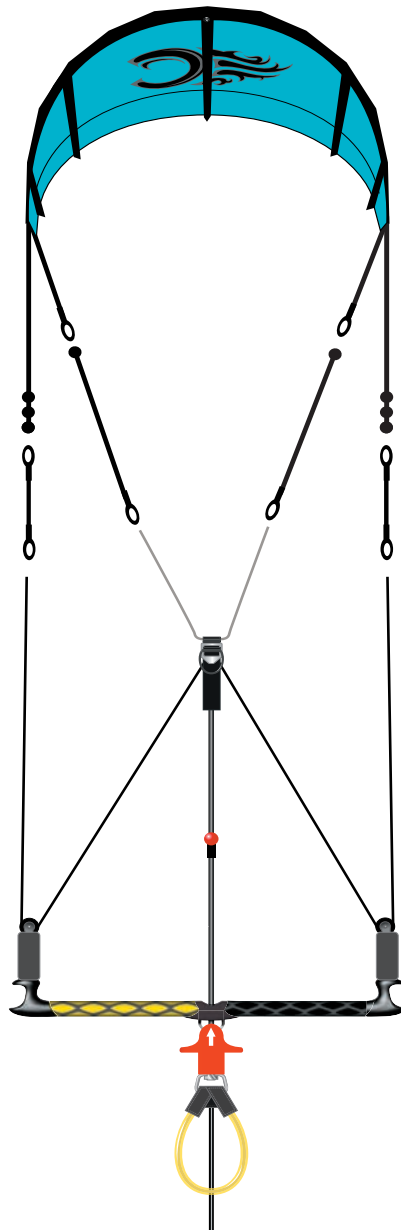
06

セッティング3

接続とランチング・ダウンウィンド用ランチングセッティング

ステップ3.2 ダウンウィンド用ランチング・セッティング（バーがカイトの風下になる場合）

- カイトのチップがコントロールバーの方を向くように、カイトの風下側30mのところにバーを置きます（カイトのリーディングエッジは風上を向くようにします）。バーをカイトの風下に移動させる際、ラインをほどく前にバーの上下を逆にしなくてはなりません。これによって黄色いシートが右に、黒いラインが左に来るようになります。
- （パワードライブCS）フロントライン（赤色）の所に行き、フロントライン・ブライダルを接続します。
- （クロスボウCS）クロスボウ・ブライダルを配置します。
- ステアリング（外側）ラインをほどき、ラークヘッド・ノットとノットを使い、トレイリングエッジあるいは後方ブライダルに（黄色は黄色、黒は黒と同じ色のライン同士を接続してください）ある中央のノットと接続します。
- 白いデパワー（中央）ラインをほどき、ラークヘッド・ノットとノットを使い、リーディングエッジあるいは前方ブライダルに（黄色は黄色、黒は黒と同じ色のライン同士を接続してください）接続します。
- ライン同士が交差したりねじれないように確認してください。
- カイトの飛行への準備は終了です。安全に関するこのマニュアルの項を熟読し、コンディションをよく理解した上で海上に出ましょう。カイトのチューニングに関しては、このマニュアルのチューニングの項にあります。





06

セッティング3

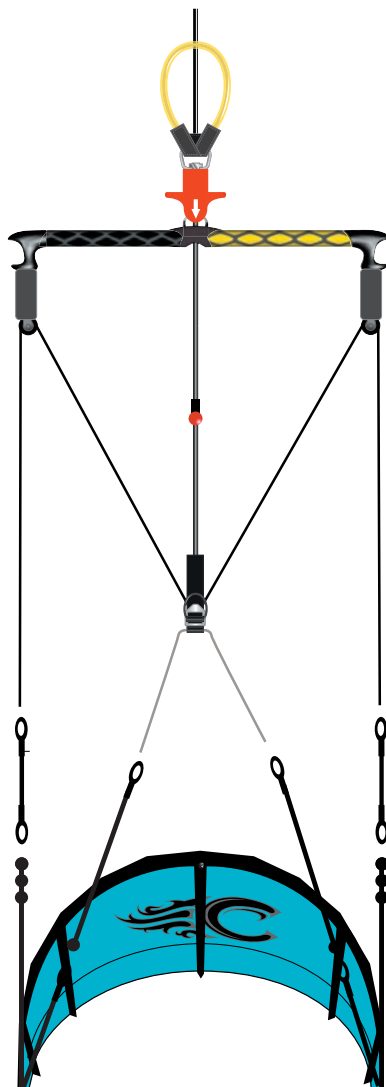
接続とランチング・アップウィンド用ランチングセッティング

ステップ3.3 アップウィンド用ランチング・セッティング（バーがカイトの風上になる場合）

- カイトの風上側30mのところのところにバーを置きます。リーディングエッジはバーの方向、風上を向いた状態で置きます。カイトのウイングチップはバーと反対方向を向いています。コントロールバーは上向きに置かれています。
- （パワードライブCS）フロントライン（赤色）の所に行き、フロントライン・ブライダルを接続します。
- （クロスボウCS）クロスボウ・ブライダルを配置します。
- ステアリングラインをほどこき、2本のラインを4フィートほど離して平行に、カイトの近くまで地面に置いていきます。（黄色いシートは左、黒いシートは右です）
- カイトがラインの間に入るくらいにラインの間隔を広げます。
- デパワー（センター）ラインの所に行き、それぞれが平行になるようにデパワーラインをステアリングラインの間に置きます。4本のラインの順番は左から右に、黄色付き黄色ライン、黄色付き白いライン、黒付き白いライン、黒付き黒いラインとなります。すべてのラインが交差したりねじれないことを確認します。
- カイトのウイングチップが風下を向くように、ステアリングラインの端に近いデパワーラインとフロントライン上にカイトを置きます。
- カイトが砂や砂袋で固定されていることを確認してください。
- （パワードライブCS）フロントラインとフロントライン・ブライダルを接続します。
- カイトの外側にあるステアリングラインをウイングチップにある後方ブライダルに接続します（黄色は黄色と、黒は黒と接続します）。ラークヘッド・ノットを使い、ブライダルの上部にあるノットとステアリングラインを接続します。ノットがしっかりと結ばれていることを確認してください。
- カイトの内側にあるデパワーラインをラークヘッド・ノットを使い、リーディングエッジのブライダルに接続します（黄色は黄色と、黒は黒と接続します）。ノットがしっかりと結ばれていることを確認してください。
- 再びライン同士が交差せず、ねじれないことを確認します。

カイトの飛行への準備は終了です。

安全に関するこのマニュアルの項を熟読し、コンディションをよく理解した上で海上に出ましょう。カイトのチューニングに関しては、このマニュアルのチューニングの項にあります。





06

セッティング4

カイトのチューニング・クロスボウ

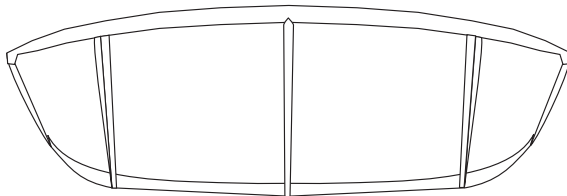
カイトのチューニング クロスボウ

クロスボウは最高のパフォーマンスを持つカイトです。さらにきちんとチューニングされたカイトはスピードアップし、デパワー機能も高まります。以下の項でライダーのスタイルに合わせてカイトをチューニングするためのガイドを紹介します。

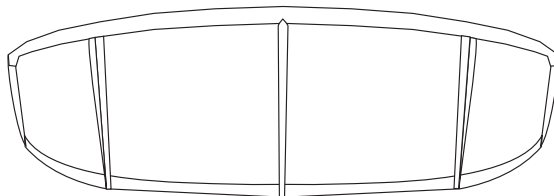
- 全てのモデルにはそれぞれ理想的なスイートスポットが設定されており、これによってステアリングとデパワーラインがきちんと働くようになります。チューニングはセンターライン調節ストラップ(CAS.)の微妙な調節によって行います。
- クロスボウは引き込み過ぎに対して敏感に反応します。バックラインにテンションをかけ過ぎると、カイトはゆっくりとしか動かず、または微風では後ろ向きにさえ飛行します。引き込み過ぎはデパワーの範囲を狭め、シャットダウンの量を非常に少なくします。
- カイトを引き込み過ぎないようにご注意ください。カイトが空を横切っている時に、カイトから最大のパワーが生まれます。より強いパワーや素早い動きを求める場合は、ステアリング（後ろ）ラインにテンションをかけます。これはカイトを引き込むことです。しかしちょうど良い状態を通り越し、バックラインにテンションがかかり過ぎたカイトはゆっくりと上空で動き、パワーウィンドウの端に移動しないようになります。
- カイトを頭上の上空に上げ、ハーネスループにハーネスをかけて強く引き込みます。カイトを引き込み過ぎた場合、カイトはウィンドウのなかに留まります。（注意：リフティングに注意してください。カイトを頭上に長い時間とどめておくことは、この現象が起こる可能性を増加させます。ライダーは身体を持ち上げられていると感じたならば、ハーネスで引くことを止めQRSを引く準備をしてください）
- 引き込みを緩めパワーを下げる方法は、センターライン調節ストラップを効果が表れるまで引くことです。センターライン調節ストラップを引くとカイトのパワーは減少します。またデパワー・ループを使用してもカイトのパワーを減少することができるので、センターライン調節ストラップだけを引いた操作を行わず、組み合わせて効果を高めてください。カイトのパワーを高めるためにはセンターライン調節ストラップにあるプラスチックループを引き下げてください。

ライダー視線のカイトです。ニュートラル・ポジションのカイトはライダーの真上に位置します。

引き込み過ぎたウイングチップ（後ろラインにテンションがかかり過ぎた状態
フロントラインがきつすぎる状態



正しいチューニング





06

セッティング4

カイトのチューニング・コントラ / レポルバ / CO2

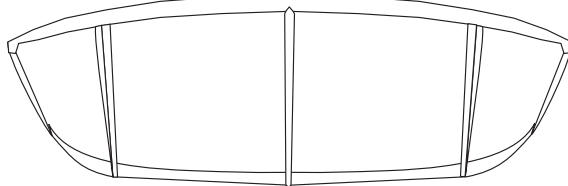
カイトのチューニング

コントラやレポルバ、CO2は最高のパフォーマンスを持つカイトです。さらにきちんとチューニングされたカイトはスピードアップし、デパワー機能も高まります。以下の項でライダーのスタイルに合わせてカイトをチューニングするためのガイドを紹介します。

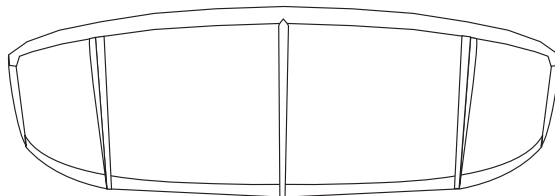
- 全てのモデルにはそれぞれ理想的なスイートスポットが設定されており、これによってステアリングとデパワーラインがきちんと働くようになります。チューニングはセンターライン調節ストラップ(CAS.)の微妙な調節によって行います。
- カイトを引き込み過ぎないようにご注意ください。カイトが空を横切っている時に、カイトから最大のパワーが生まれます。より強いパワーや素早い動きを求める場合は、ステアリング（後ろ）ラインにテンションをかけます。これはカイトを引き込むことです。しかしちょうど良い状態を通り越し、バックラインにテンションがかかり過ぎたカイトはゆっくりと上空で動き、パワーウィンドウの端に移動しないようになります。
- カイトが頭の上にある場合、ハーネスループを使用しハーネスを引き込みながら空気の入ったパテンとウイングチップの関係を観察します。きちんとチューニングされたカイトのウイングチップはパテン同士が平行になり、ステアリングライン（バックライン）にテンションがかかります（図1）。ウイングチップがリーディングエッジに向けて外側に広がっている場合は、カイトの引き込み過ぎです（図2）。（注意：リフティングに注意してください。カイトを頭上に長い時間とどめておくことは、この現象が起こる可能性を増加させます。ライダーは身体を持ち上げられていると感じたならば、ハーネスで引くことを止めQRSを引く準備をしてください）
- 引き込みを緩めパワーを下げる方法は、センターライン調節ストラップを効果が表れるまで引くことです。センターライン調節ストラップを引くとカイトのパワーは減少します。またデパワー・ループを使用してもカイトのパワーを減少させることができますので、センターライン調節ストラップだけを用いた操作を行わず、組み合わせて効果を高めてください。カイトのパワーを高めるためにはセンターライン調節ストラップにあるプラスチックループを引き下げてください。
- フロントラインはテンションを強くかけ過ぎないようにチューニングする必要があります。テンションをかけ過ぎるとカイトがデパワーして縮みやすくなります。カイトが十分に飛行せず、フローでグラグラすることがあります。ポールはメインラインの端にあるステンレスリングにしっかりと固定されていなければなりません。

ライダー視線のカイトです。ニュートラル・ポジションのカイトはライダーの真上に位置します。

引き込み過ぎたウイングチップ（後ろラインにテンションがかかり過ぎた状態）
フロントラインがきつすぎる状態



正しいチューニング





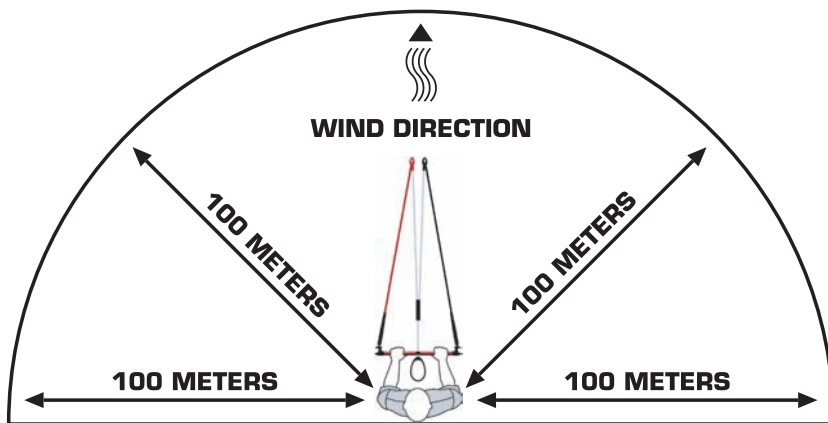
06

カイトボーディングの基本

使用可能なエリア

使用可能なエリア

両サイドとライダーの風下側に100mの余裕が必要です。ライダーが他の人、物に対して安全を確保するため十分なエリアがとれない場合は、カイトをランチングしないでください。



カイトのポジション、ゾーンとパワー

カイトをランチングする前にパワーゾーンに対する知識を知ることは大切なことです。カイトボーディングに関する多くの事故は陸上で起こり、またニュートラルポジションと呼ばれるポジションにカイトがあるときに起こっています。多くの人はニュートラルポジションにあるカイトは安定していると考えています。しかし風は絶えず変化し、それによってニュートラルポジションにあるカイトはリフティングと呼ばれる現象が起こります。カイトへの風が弱まると（またはフォイルに十分な風がなくなると）、カイトはライダーから遠ざかる動きをします。ブローが入るとカイトは突然パワーを生み、そのパワーはライダーにとってはカイトを頭上にキープしておくには強すぎる状態となります。そのためライダーは空中に持ち上げられてしまいます。その結果起こるリフティングは危険です。しかしパワーゾーンについて理解することによってリフティングに陥る可能性をできるだけ避け、陸上でカイトをニュートラルポジションで保たないようにすることができます。





06

使用手引き

使用可能なエリア・カイトポジション、ゾーンとパワー

ニュートラル・ポジション

これはライダーの頭上にカイトがあるポジションです。ライダーがバーを水平に持ち上げれば、カイトはこのニュートラルポジションに向かいます。しかしカイトをこのポジションに保つことは難しく、危険を伴います。このポジションのカイトは安定し、パワーやライダーを引く力が弱いように感じられるかもしれませんが、ブローが入ると陸上ではライダーがリフティングに陥りやすいポジションでもあります。海上ではボードを手繰り寄せるときなどに休憩のために使われる便利なポジションですが、陸上ではニュートラルポジションでのカイト飛行を極力避けることを強くお勧めします。ランチングの後、いち早く海上に向かうことです。カイトをニュートラルポジションにして長い時間陸上にいないでください。これは大変危険な行為です。

リフティング

リフティングはカイトがライダーの頭上になるニュートラル・ポジションとときに起こります。不安定な風が突然垂直な力を発生させ、ライダーを上空に持ち上げる現象です。

ニュートラル・ゾーン

ニュートラル・ポジションを中心に左右に幅を広げたエリアです。カイトの飛行を開始するためには、風上方向や風下方向に向けるのが難しいエリアです。この位置にあるカイトはパワーゾーンにあるカイトに比べてパワーも引く力も強くありません。しかし陸上やガスティブなコンディションの時は特に、このゾーンにカイトがある場合は注意が必要です。

パワー・ゾーン

ライダーの前あるいは横に当たるこの位置のカイトは、ニュートラル・ポジションやゾーンと比べ、パワフルです。このエリアにあるカイトは最もパワフルで、ライダーを引く力が強い状態です。このエリアにあるカイトはパワフルで危険を伴うので、練習中のライダーはできるだけこのエリアでのカイトの使用を避けましょう。カイトがこのゾーンにある場合、注意が必要です。

パワーについて

カイトのパワーを増長させるための一つの方法は、上空でカイトを上から下へ、下から上へと絶えず動かすことです。カイトを上空で動かすことによってリフトを生み、カイトはパワーアップします。特に練習中のライダーはこのことを頭に入れておいてください。カイトを低い位置からニュートラル・ポジションに動かすことによってパワーが生まれ、カイトはスピードアップしますので、そのための準備が必要です。

風が足りないときにはこの特徴を利用し、プレーニングに必要なパワーとスピードをつくり出すことが可能です。





06 使用手引き

ステアリング

ステアリング

覚えておきたいキーポイント

- 陸上でカイト操作を練習している場合、カイトには非常にパワーがあるということを頭に入れておいてください。安全に十分に留意してください。まずカブリナのトレーニングカイトを使い、カイトの操作方法を体得し、その技術を充分にあげることをお勧めします。その後パワーカイトを使って、海上でボディドラッグを練習しましょう。
- 最初にカイトを飛ばす練習をする場合、カイトから目を離さないようにしましょう。
- ゆっくり操作しましょう。コントロールバーを急激に動かさないようにしてください。
- カイトのパワーを絶えず充分に考慮してください。
- 決して車のハンドルのようにコントロールバーを操作しないでください。カイト操作を困難にし、操作不能に陥る可能性があります。

カイトを左に移動させる方法

- 両手でバーを持ち、手を肩幅に広げます。
- カイトから目を離さない状態で、左手を身体に近付けるようにコントロールバーを引きます。
- これは左ひじを曲げ、右ひじを伸ばすような形になります。片方の腕を伸ばすことが重要です。同時に両腕を身体の方に曲げないでください。
- ゆっくりと操作します。素早い動きはカイトのターンのスピードを速め、より強いパワーを生みます。
- カイトがターンし始めたら、違う操作を加えるまでカイトは左回転し続けます。
- カイトをニュートラルポジションに戻す準備をします。



カイトを右に移動させる方法

- 両手でバーを持ち、手を肩幅に広げます。
- カイトから目を離さない状態で、右手を身体に近付けるようにコントロールバーを引きます。
- これは右ひじを曲げ、左ひじを伸ばすような形になります。片方の腕を伸ばすことが重要です。同時に両腕を身体の方に曲げないでください。
- ゆっくりと操作します。素早い動きはカイトのターンのスピードを速め、より強いパワーを生みます。
- カイトがターンし始めたら、違う操作を加えるまでカイトは右回転し続けます。
- カイトを他の位置に移動させる準備をします。



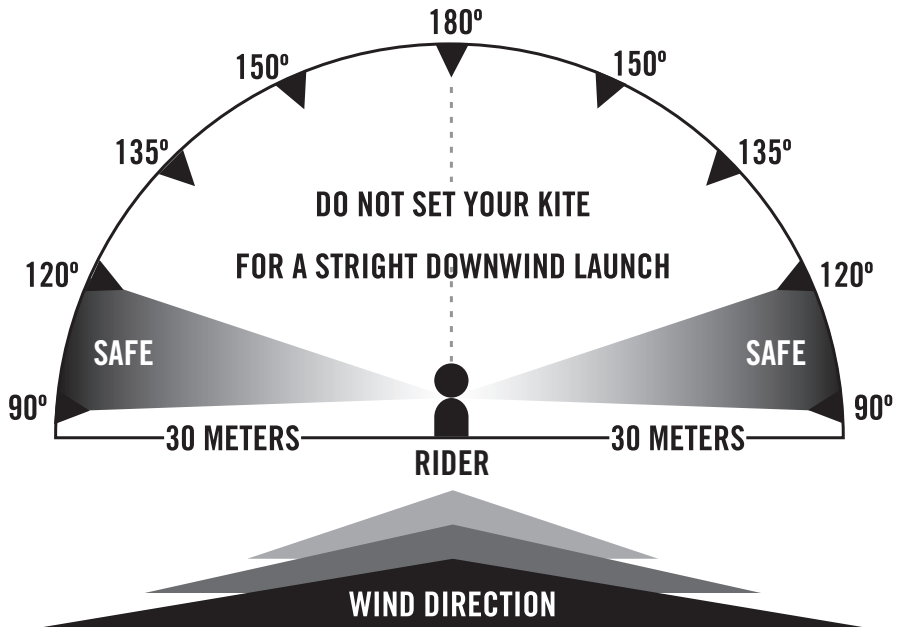


06 使用手引き

ランチングの準備

ランチングの準備

- ライダーの左右と特に風下側に100m以上なにもないスペースを確保します。
- ライダーが立つポイントより風下側にカイトがランチングすることを考慮し、道具を置きます。
- ライダーの真風下の位置からカイトをランチングしないでください。このエリアのカイトはパワーがありすぎるためライダーや周りに危険を及ぼす可能性があります。周りの安全に充分に留意してください。
- 基本的にライダーが背中から風を受けている場合、真風下は180度の角度となります。ライダーの左右100度の角度で風下側にカイトがセッティングされるようにしてください。
- ランチング時にカイトが風上に向かっていればカイトのパワーは少ないので、安全なランチングに最適です。
- ライダーがコントロールバーを持ち、カイトから30m離れる間、パートナーにカイトを持ってもらう方法が理想的です。
- ランチングはゆっくりと安全に行ってください。カイトのランチング時の角度を考え、決して真風下からランチングしないでください。





06 使用手引き

パートナーとのランチング

パートナーとのランチング

- 1.ランチングする前にQRSを使いこなせるようにし、必要ときに動作できるようにしてください。これらのシステムがきちんとセッティングされていることを確認してください。
- 2.次にラインやギア、ランチング場所をチェックし、それが万端ならばカイトをランチングする準備は完了です。
- 3.ランチングする前にパートナーとライダーの双方が理解できる、リリースのときの合図を打ち合わせておきます。
- 4.(クロスボウCS) オーバーライドポールを外しておきます。
- 5.(パワードライブCS) タップアウト・リーシュを接続します。
- 6.次に安全ピンをセットします。
- 7.風下100度のところにカイトを持ってパートナーに立ってもらいます。
- 8.パートナーにはリーディングエッジの中央を持ってもらい、リーディングエッジが垂直に風に向かうようにします。
- 9.パートナーはカイトの裏側に立ち、カイトの横や前に立たないようにします。
- 10.パートナーが決してブライダルやフライングラインに触れないよう、注意してください。
- 11.コントロールバーを胸の高さに持ち、フライングラインのたるみを取り除くために数歩後ろに下がります。
- 12.カイトを離すよう、パートナーに合図します。カイトがパートナーの手を離れた瞬間からライダーがカイト操作を行います。
- 13.パートナーはカイトを上空に投げてはいけません。ランチング前にパートナーに実際にカイトを投げてみせましょう。上空に投げられたカイトはその性能を発揮することができず、通常通りのランチングをすることができません。その際カイトは強すぎるパワーを発するか全くランチングしない状態になります。この方法は危険なランチングです。
- 14.カイトを離れたパートナーは、ライダーの風上に移動し、ライダーの妨げとならないようにします。
- 15.ゆっくりとカイトをパワーウィンドウの端に移動するよう操作します。急激な動きは避けましょう。十分にカイトをコントロールしながらゆっくりと移動させます。
- 16.カイトがパワーウィンドウの端に到達したら、背中から風を受ける状態でゆっくりと水際に向かいます。その際カイトを絶えずチェックしていきましょう。いつでもカイトの動きを把握しておく必要があります。
- 17.(クロスボウCS) ランチングの際に少しでも不都合が生じた場合に備え、デパワーするためカイトからコントロールバーを離す準備しておきます。
- 18.(パワードライブCS) ランチングの際に少しでも不都合が生じた場合に備え、タップアウト付クイックリリース・システムを使う準備しておきます。
- 19.警告：ランチングの最中に風が強ければ強いほど、全てがスピードアップして起こります。そのためにもゆっくりとした安全なカイト操作が不可欠です。
- 20.(パワードライブCS) 障害物から十分な距離がある海上に出たら、タップアウト・リーシュを解除することができます。これによってタップアウトの機能は解除されます。解除後はカイト方向にリリース・ボディを引くことによってカイトをデパワーさせたりショットダウンすることができます。
- 21.(クロスボウCS) 障害物から十分な距離がある海上に出たら、オーバーライド・ポールを解除することができます。解除後はオーバーライド・ポールの外にバーをスライドさせることによって、カイトをただちにデパワーさせることができます。

警告：ランチングの最中に風が強ければ強いほど、全てがスピードアップして起こります。そのためにもゆっくりとした安全なカイト操作が不可欠です。





06 使用手引き

パートナーとのランディング

パートナーとのランディング

- 1.ランチングする前にパートナーにカイトの正しいランディングについて説明しておきましょう。
- 2.ランチング前に必ずランディングに必要なスペースを確保しておきましょう。
- 3.上の内容を確認したうえで、水際に向かうときにも、ランディングの場所に人がいないことや障害物がないことを確認します。
- 4.特にライダーの風下、カイトの近くや下に何かある場合、ランディングしてはいけません。人やペット、電線、木、その他障害物がない場所にランディングしてください。
- 5.波打ち際に近づく際には、カイトをパワーウインドウの端で海面に近い低い位置に保ちます。
- 6.ボードから下りて波打ち際までの最後の距離はボディドラッグで進みます。スピードをつけて波打ち際に近付いてはいけません。
- 7.ゆっくりと風上のパートナーのところにカイトを移動させます。
- 8.パートナーは風上方向からカイトに近付きます。
- 9.カイトが地面に付きそうになったところで、パートナーはリーディングエッジの中央部分を掴みます。パートナーはランチング時と同じ箇所を持ってください。
- 10.パートナーはブライダルやフライイングラインを持たないように、注意してください。
- 11.パートナーがウイングチップやトレーリングエッジを持たないように、注意してください。ウイングチップやトレーリングエッジを持たれたカイトはフリップやスピンなど、回転動作を行います。この状態のカイトは扱いにくく危険です。
- 12.パートナーはカイトのリーディングエッジを持った後、カイトを持ったまま波打ち際から離れます。
- 13.パートナーはカイトを持ち続けるか、あるいはパテンを地面につけリーディングエッジを風上にして置き、砂や砂袋を重りして安全をはかった状態で地面に置きます。
- 14.カイトを安全に地面の置いた後、ラインを巻きましょう。



06 使用手引き

リランチング

リランチング クロスボウ

注意：リーディングエッジをはじめ、すべてのバテンにしっかりと空気が入ったカイトは、海上でのリランチが可能で、水に入る前にカイトに十分な空気が入っているか確認しましょう。

- カイトが水面に落ちた場合、ライダーの意志とは関係なくカイト自体がリランチすることを覚えておきましょう。カイトが水面に落ちた場合はその動きに対する心構えが必要です。
- カイトがフェイスから海面に落ちた場合、リーディングエッジとバテンは水に浸かります。この状態からカイトをリランチの状態にするまでの操作をまず行います。
- リア（後ろ）リーダーラインをライダーの身体方向に引きます。リーダーラインにコンスタントなテンションを加えてください。注意：手にリーダーラインを巻かないように注意してください。また身体にもラインが巻つかないようにしてください。カイトのウイングチップを浮かせるためには2m程度のリーダーラインを引く必要があります。
- ヒント：ボードに足を乗せて身体の前にボードを置いてください。これによって身体が前に動く速度が遅くなり、素早くリランチできるようになります。
- ウイングチップが浮いてきたら、カイトはじきにひっくり返ります。
- カイトはひっくり返った後、ウインドウインドウの端に移動します。操作を加えてカイトをウインドウの端まで移動させます。カイトをリランチする直前まで、同じリーダーラインを持ったままです。
- 風が弱いときなど、カイトがウインドウインドウの端に到達するまで時間がかかります。そうした場合でもカイトの動きを妨げるだけなので、我慢できずにバーの両側を引かないでください。左右どちらでも、最初に選んだ側を保ちカイトが動くのを待ちましょう。
- カイト自体のリランチの準備ができたなら、リーダーラインを離しカイトを上空に上げます。ゆっくりとカイトを操作して上空に上げ、バーを水平に持ち上げましょう。





06 使用手引き

リランチング

リランチング フロントライン

リーディングエッジをはじめ、すべてのバテンにしっかりと空気が入ったカイトは、海上でのリランチが可能です。水に入る前にカイトに十分な空気が入っているか確認しましょう。

- カイトが水面に落ちた場合、ライダーの意志とは関係なくカイト自体がリランチすることを覚えておきましょう。カイトが水面に落ちた場合はその動きに対する心構えが必要です。
- カイトがフェイスから海面に落ちた場合、リーディングエッジとバテンは水に浸かります。この状態からカイトをリランチの状態にするまでの操作をまず行います。
- リカバリー・リーダーラインをライダーの身体方向に引きます。リーダーラインにコンスタントなテンションを加えてください。注意：手にリーダーラインを巻かないように注意してください。また身体その部分にもラインが巻つかないようにしてください。カイトのウイングチップを浮かせるためには2m程度のリーダーラインを引く必要があります。
- ウイングチップが浮いてきたら、カイトはじきにひっくり返ります。
- カイトはひっくり返った後、ウインドウの端に移動します。操作を加えてカイトをウインドウの端まで移動させます。カイトをリランチする直前まで、同じリーダーラインを持ったままです。
- 風が弱いときなど、カイトがウインドウの端に到達するまで時間がかかります。そうした場合でもカイトの動きを妨げるだけなので、我慢できずにバーの両側を引かないでください。左右どちらでも、最初に選んだ側を保ちカイトが動くのを待ちましょう。
- カイト自体のリランチの準備ができたなら、リーダーラインを離しカイトを上空に上げます。ゆっくりとカイトを操作して上空に上げ、バーを水平に持ち上げましょう。
- 通常にライディングできるようになり、フライイングラインにテンションがかかったら、フロントラインは通常の飛行テンションにリセットされます。





06

セッティング

フライングラインの交換・クロスボウCS / パワードライブCS

クロスボウCS/パワードライブCS

コントロールシステムのフライングラインを交換するには、まずリーダーラインについている現行のフライングラインを取り外す必要があります。その後、現行のリーダーラインに新しいフライングラインをつけて調節作業を行います。

- リーダーラインへの新しいフライングラインの取付け
- ラインを結んでその長さが均等かどうかチェックする杭や木から、少なくとも30m離れた地面にコントロールシステムを上向きにして置きます。
- 杭とコントロールバーの間に色分けされたフライングラインをほどいて置きます。前（内側）デパワーラインと後（外側）ステアリングラインの2セットのラインがあります。
- フライングラインにねじれや交差した箇所がないことを確認してください。これはラインを両手に持って、ラインに沿って歩くことによってチェックできます。ラインがまっすぐになったら、ラインの端からコントロールバーを見て以下の順番にラインを並べ変えます。左から右：黄色いステアリングライン、黄色付き白いデパワーライン、黒付き白いデパワーライン、黒いステアリングラインの順です。
- ラクヘッドとラクヘッドを繋ぐ方法で、ステアリングラインとリア（後ろ）リーダーラインを接続します。まずそれぞれのフライングラインにラクヘッドループを作ります。{IMG}左リーダーラインのノットに黄色付のループをつなぎます。接続部分をひっぱり、しっかりと接続されていることを確認します。次に右リーダーラインのノットに黒色付のループをつなぎます。接続部分をひっぱり、しっかりと接続されていることを確認します。
- しっかりと接続されていることを確認します。
- センターラインを交換するためには、デパワーフライングラインにラクヘッドループを作ります。センターライン調節ストラップ（CAS）の左リーダーラインのノットに黄色付のループをつなぎます。接続部分をひっぱり、しっかりと接続されていることを確認します。さらにセンターライン調節ストラップ（CAS）の右リーダーラインのノットに黒色付のループをつなぎます。接続部分をひっぱり、しっかりと接続されていることを確認します。
- これでリーダーラインはきちんと接続されたので、ラインの長さが均等かどうか確認します。





06

セッティング

フライングラインの交換・パワードライブCS

パワードライブCS

パワードライブ・コントロールシステムのフロントラインを交換する場合、まず現行のフロントラインをコントロールシステムからはずします。その後新しいフロントラインを取り付けます。

新しいフロントラインの取付け

- ラインを結んでその長さが均等かどうかチェックするための杭や木から、約30m離れた地面にコントロールシステムを上向きにして置きます。（カブリナ・ユーズーマニュアルのステップ1.2を参照）
- 杭とコントロールバーの間に新しいフロントラインをほどいて置きます。
- 上部フロントラインと下部フロントラインのラークヘッド同士を合わせ、下部フロントラインのループを上部フロントラインのループに通します。
- 上部フロントラインのカイト側の端を下部フロントラインのループに入れます。
- 上部フロントライン全体もループに通していきます。
- 接続部分をひっぱり、しっかりと接続されていることを確認します。
- 16mmのボールを下部フロントラインの近くにスライドさせます。
- V字のベースにあるリングに上部フロントラインを通します。
- これでフロントラインはコントロールシステムにきちんと接続されたので、ラインの長さが均等かどうか確認します。





06

リペア

引き裂け / バテン・ブラダーのリペア

大きな引き裂け

カイトのファブリックに大きな引き裂けができた場合、販売店にカイトのリペアをしてくれるロフトを紹介してもらいましょう。

小さい引き裂け

カイト・ファブリックの小さい引き裂けはカイトリペア・テープで修復可能です。リペアテープは販売店で購入できます。

1. カイトをきれいにし完全に乾かします。
2. カイトを平らで凹凸のないきれいな所に広げます。
3. 引き裂けが完全に隠れる程度の大きさにリペアテープを2枚切ります。
4. リペアテープの1つで引き裂けの片面を注意しながら完全に被います。カイトの表面にテープをこすりつけて密着させましょう。
5. 引き裂けの逆の面にもうひとつのリペアテープを張り付け、同じように密着させます。
6. 両面のテープがしっかりと接着されていることを確認します。

バテンのリペア

覚えておきたいポイント

- カイトのブラダーのひとつをリペアする前に、カイトがきれいな状態で完全に乾いていることを確認します。常にポンプとブラダーには砂がついていない状態を保ち、完全に乾かして汚れを拭き取ります。
- バテンに空気が入っていないことを確認します。
- ビーチや汚れた場所、埃の多い場所、風が吹いている場所でのリペアは避けてください。風がないきれいで乾いた場所がリペアに最適です。さらに床など、下がスベスベした所が理想的です。
- ブラダーをリペアする前にフライングラインのセットとブラダー・リペア・キット（カイトに付属）を用意します。

バテン・ブラダーのリペア

1. まずバテンを上に向けてカイトを置きます。
2. 傷付いたバテンのベルク口開閉口をはずします。これによってバテンのスリーブを開き、ブラダーを取り出すことが可能になります。
3. ベルク口開閉口からバルブを取り外し、バテンのスリーブとノズルを離します。これによってブラダーがスリーブから離れます。バルブプラグは後のために大切にとっておきます。
4. バルブのひとつにフライングラインを結びます。バルブの根元にしっかりと結びましょう。バルブのノズルを通して結ばないでください。破損の恐れがあります。
5. バテンのスリーブにゆっくりとバルブを差し込みます。
6. スリーブの底に手を当て、スリーブからそっとブラダーを引き抜きます。その際フライングラインはスリーブに通したままにしておきます。スリーブにフライングラインを通したままにするのは、リペアが終わった段階でブラダーを元の位置に戻しやすいためです。
7. ブラダーに空気を送り込み、バルブを差し込みます。ブラダーを膨らませ過ぎないように注意してください。
8. 穴の開いた箇所を調べるためにブラダーを水に沈めます。バスタブなど、大量に水がある場所の方が楽に動作を行う





06

リペア

引き裂け / パテン・ブラダールのリペア

ことができます。

9.泡の発生によって穴の位置を見分けます。

10.空気が漏れている箇所を見つけたら、その箇所を乾かし穴の周りに丸を書き込んで印をつけます。油性ペンで書くことをお勧めします。

11.柔らかいタオルでブラダール全体の水気をきれいに拭き取ります。

12.ブラダールから空気を抜きます。

13.接着剤を使うか、ブラダール・リペアキットの中にあるパッチを使うか決めます。

14.穴がシームにかかっている場合には接着剤が必要になります。

15.穴がブラダールの平らな面の一部にある場合には、パッチのひとつの裏紙をはがし、パッチをブラダールに張り付けます。穴を完全に被うように注意します。

16.完全に乾かすため、少なくとも20分はブラダールをそのままにしておきます。

17.再びブラダールに空気を入れ、穴が完全にふさがったかどうかチェックします。

18.ブラダールの穴を修理した後、ブラダールを元に戻しやすいようにベビーパウダーなどでブラダールをコーティングすると作業が簡単です。

19.ブラダールから空気を抜きます。

20.バルブを引き抜き、ベルク口開閉口からパテン内に戻します。パテンの端のフライングラインを結び、バルブノズルまで開きます。

21.パテンの端にブラダールを平らに置き、スリーブにブラダールに戻します。

22.バルブをゆっくりとスリーブに戻し、ブラダール全体がスリーブに入るようにします。

23.スリーブのバルブによって開口している部分からフライングラインを引き、その一方でブラダール元の場所に戻るよう移動させます。

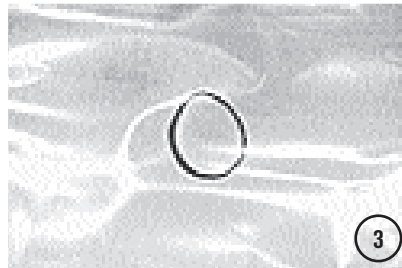
24.ブラダールが元に位置に戻ったら、スリーブのホールにバルブに戻し、縛ってあったフライングラインをほどきます。

25.スリーブの底にベルク口を閉めます。

26.バルブプラグを取り付けます。

27.スリーブの4つ角までブラダールが行き渡っているかどうか調べるために、パテンに空気を入れます。

28.完全にパテンに空気を入れてチェックが終わったら、空気を抜いてカイトを片付けます。





06

リペア

リーディングエッジ・ブラダーのリペア

リーディングエッジ・ブラダーのリペア

- バテンが上を向くように置きます。
- リーディングエッジ (LE) ・ブラダーの両端は折り返しになったベルク口開閉口がついています。LEの中央にはジッパーで開閉できるポケットもついています。ベルク口開閉口をはずし、中央ポケットのジッパーを開いてください。これによってスリーブが開くようになりブラダーに触ることが可能になります。
- リーディングエッジについているエアロックバルブをはずします。リテーナリングをブラダーから慎重にはずします。外した部品は後のために大切にしておきます。
- バルブがスリーブと別になるよう、スタンダードバルブにあるバルブプラグをベルク口開閉口と離します。この作業はスリーブからブラダーを取り外すために必要です。外した部品後のために大切にしておきます。
- 次にフライイングラインを2セット用意します。リーディングエッジの片側からラインを通し始め、ラインの片方の端をブラダーのウイングチップに結びます。ラインはしっかりと結びましょう。2つめのラインを使って、同じ動作を反対側のリーディングエッジの端にも行います。
- バルブをスリーブのなかにそっと押し込みます。
- これでリーディングエッジ・バルブに近いジッパー付きポケットに手を入れ、リーディングエッジ・ブラダーに触ることができるようになります。
- ブラダーの片側をスリーブから抜き出します。フライイングラインはスリーブに通ったままにしておきます。スリーブに通ったフライイングラインは、リペア後ブラダーを元の位置に戻す時に使います。
- スリーブから出したブラダーには空気を入れ、空気が抜けないように両方のバルブを閉めます。ブラダーを膨らませ過ぎないように、注意してください。
- 穴の開いた箇所を調べるためにブラダーを水に沈めます。バスタブなど、大量に水がある場所の方が楽に動作を行うことができます。泡の発生によって穴の位置が分かります。
- 空気が漏れている箇所を見つけたら、穴の周りに丸を書き込んで印をつけます。油性ペンで書くことをお勧めします。
- 柔らかいたオルでブラダー全体の水気をきれいに拭き取ります。
- ブラダーから空気を抜きます。
- 接着剤を使うか、ブラダー・リペアキットの中にあるパッチを使うか決めます。
- 穴がシームにかかっている場合には接着剤が必要になります。
- 穴がブラダーの平らな面の一部にある場合には、パッチのひとつの裏紙をはがし、パッチをブラダーに張り付けます。穴を完全に被うように注意します。
- 完全に乾かすため、少なくとも20分はブラダーをそのままにしておきます。
- 再びブラダーに空気を入れ、穴が完全にふさがったかどうかチェックします。
- ブラダーから空気を抜きます。
- ブラダーの端にフライイングラインを結びます。
- ブラダーをポケット近くに平らに置き、蛇腹状に畳んでブラダーをねじることなくスリーブに戻せる状態にします。
- 片側からスタートし、ポケットからブラダーを元の位置に戻していきます。





06

リペア

リーディングエッジ・ブラダーのリペア

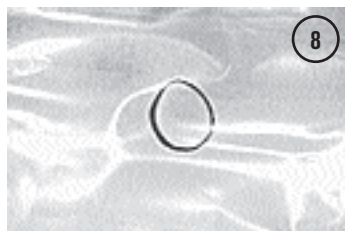


6

- リーディングエッジの片端に歩いていき、スリーブの端を持ちながらフライングラインをゆっくりと引きます。片側のブラダーがゆっくりとスリーブ中の元の位置に戻ります。
- ブラダーのもう片側にも同じ動作を行います。バルブがホールの近くまで移動し、ブラダーがしっかりとスリーブ内に修まるまで同じ動作を続けます。
- ブラダーをスリーブの端まできちんと押し込みます。
- ブラダーが元の場所に収まったらスリーブのホールを通してバルブを元の位置に戻します。
- スタンダードバルブを元の位置に戻しバルブプラグをベルクロに戻します。
- ジッパーの歯が内蔵ブラダーをかまないように注意してください。LEの中央ポケットのジッパーを閉じます。ウイングチップのポケットを元のように折り曲げベルクロストラップをしっかりとつけます。
- エアロックバルブを取り付けます。
- スリーブの4つ角までブラダーが行き渡っているかどうか調べるために、リーディングエッジに空気を入れます
- 完全にリーディングエッジに空気を入れてチェックが終わったら、空気を抜いてカイトを片付けます。



7



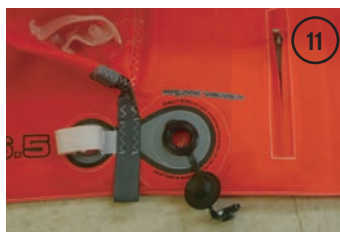
8



9



10



11





06 専門用語集

カイトボーディングや風に関して頻繁に使われる言葉

トレーニングカイト

カイト・ボーディングに使用するカイトの動きをシミュレーションする陸上で使用する練習用カイト。非常に優れたトレーニング用の道具です。サイズは小さくても充分なパワーがあるので、使用時には注意が必要です。

インフレーターブル・カイト

浮力を持たせるように空気をいれたチューブのついたカイト。リランチングが簡単に行えます。

バテン

カイトの外側を被うファブリック製の部位。空気を挿入しカイトの骨組みとなる内蔵ブラダーを被います。

ブラダー

リーディングエッジとバテンに内蔵された空気を挿入するチューブ。(自転車のタイヤのように内側に空気を入れるチューブが入るシステムになっています)

フロントライン

フロントライン安全リーシュとリランチングシステム

QRSクイックリリース

ライダーが緊急時にリリースできるコントロールシステムです。QRSハーネスリーシュがライダーとカイトを接続し、緊急時に接続を解除できるようデザインされています。

バイパスリーシュシステム

初めてカイトボーディングする人やスクールなど、ハーネスループを使えない人にお勧めの、オプションで取り付けられる安全なリーシュです。

コントロールバー

カイトを操作するとき用いる、ライダーにとってハンドルのような役割をするもの。

ブライダル

カイトのウイングチップから下がっているライン。カイトとコントロールバーをつなぐために用いるフライイングラインはこのブライダルに結びます。

リーダーライン

コントロールバーに直接つけるライン。バーとフライイングラインを接続するために使います。

フライイングライン

カイトに付いてくる4本すべてのラインの総称です。このラインはカイト付属のブライダルラインとコント

ロールバー付属のリーダーラインを結んでいます。通常20-30mの長さがあります。

ステアリングライン

カイトのトレーニングエッジにあるブライダルから出ている外側に付いた2本のフライイングラインのこと。一方はカイトの左のウイングチップから、もう一方は右のウイングチップから伸びます。

デパワーライン

中央に接続されている2本のフライイングラインで、一方は左のウイングチップから、他方は右のウイングチップのリーディングエッジから伸びます。このラインはカイトのデパワー機能に働きます。

ハーネス

コントロールバーにあるハーネスラインとライダーをつなぐ便利な道具です。これによってライダーは自分の体重を生かしながら、あまり力を使わずにカイトにぶら下がるようにライディングすることができます。もっとも一般的なのはウエストハーネス(胴部に着用するタイプ)とシートハーネス(胴部に着用し足の付け根に巻くタイプ)です。

カイトボーディング

水上でパワーカイトするスポーツの総称。

カイトサーフィン

水上でパワーカイトするスポーツのもうひとつの総称。

ニュートラルポジション

ライダーの頭上ほぼ真上にカイトがあるポジションです。ライダーがバーを高く持ち上げると、カイトは自動的にニュートラルポジションに移動します。しかしこのポジションにカイトを保つことは難しく危険です。このポジションにあるカイトは安定していてパワーがないように感じられますが、地上にいるライダーをリフティングする可能性の高いポジションです。海上にいる時はボードを手繰り寄せている間に使いやすいポジションですが、陸上にいる時には極力このポジションを使用しないでください。ランチング後は素早く海上に出て、このポジションを避けることをお勧めします。陸上でこのポジションは大変危険です。

ニュートラルゾーン

ニュートラル・ポジションを中心に左右に幅を広げたエリアです。飛行を開始するためにカイトを風上方向に向けるためのエリアです。この位置にあるカイトはパワーゾーンにあるカイトに比べてパワーや引く力が劣ります。しかし陸上やガスティブなコンディションの時は特に、このゾーンにカイトがある場合は注意





06 専門用語集

が必要です。

パワーゾーン

ライダーの前あるいは横にあたるこの位置のカイトは、ニュートラル・ポジションやゾーンと比べ、パワフルです。このエリアにあるカイトは最もパワフルで、ライダーを引く力が強い状態です。このエリアにあるカイトはパワフルで危険を伴うので、練習中のライダーはできるだけこのエリアでのカイトの使用を避けましょう。カイトがこのゾーンにある場合、注意が必要です。

ランチング

パートナーの手からカイトを上空に上げるライダーの動作です。

セルフ・ランチング

パートナーなしでカイトをランチングするテクニック。ライダーの準備が完了するまで砂や重りをウイングチップに置いて行きます。

リランチング

水面に落ちたカイトをライダーが操作し、再び上空に戻すこと。

ボディドラッグ

水上にいるライダーがカイトを上空に上げながらボードを使わないテクニック。カイトの飛行を練習するために、ランチング後波打ち際まで歩き、海上で身体をカイトにひっぱってもらいます。カイトの飛行とリランチング、自己レスキューの方法を学びます。

ウォータースタート

ライダーが水中にいる状態から立ち上がり、ボードに乗ること。

ジャイビング

ライダーが乗っているボードの走っている向きを変え、スタポータックからポートタックに、またその反対に移ることを言います。

ブレーニング

ボードが水面を滑走する状態。

ランディング

岸にいるパートナーの手元にライダーがカイトを操作して移動させる動作。

オーバーパワー

ライダーの能力や体重、体力、風のコンディションと比べ、カイトのパワーが強すぎる状態。

アンダーパワー

ライダーの能力や体重、体力、風のコンディションと比べ、カイトのパワーが弱すぎる状態。

リーチ

風向きに相対するカイトが動く方向。通常は風下に対して60から160度の方向。

ラル

風（ブロー）が抜けた箇所。ガスティなコンディションでブローが抜けた状態のことを言います。またカイトが完全にデパワーした状態にあることも言います。

ラフ

風が抜けた状態のカイトに起こる現象。

サイドショア

陸に向かって左もしくは右から吹き、岸と平行に吹く風。カイト・ボーディングに理想的な風向き。

オンショア

陸から水面に向かって垂直に吹く風。この風向きの場合は水上や水際でのカイトの使用は禁止です。

サイドオンショア

水面の左もしくは右から陸に向かって吹く風。オンショアとサイドショアの中間の風向き。水面あるいは波打ち際でカイトを飛行させてもいい風向き。

オフショア

陸から水面に吹く風。水面や水際でカイトを飛行させてはいけない風向き。

サイドオフショア

陸の左もしくは右から水面に向かって吹く風。オフショアとサイドショアの中間の風向き。水面や水際でカイトを飛行させてはいけない風向き。

ガスティ

風がコンスタントに吹かず、強弱がある状態。

ダウンウインド

風下。風が吹いていく方向。

アップウインド

風上。風が吹いてくる方向。

リウォード

カイト・ボーダーの風下側。





06 専門用語集

ウインドワード

カイト・ボーターの風上側。

ノット

スピードや風速の単位。海里に基づき計算される。

1ノット=1時間で1海里進む速さ。

1ノット=1.15mph.

1ノット=1.85km

MPH

1 mph = 1.6 kilometers per hour.

スピードや風速の単位。マイルに基づいて計算される。1mph=1時間で1マイル進む速さ。

ビューフォート風力級

風が起こす諸現象（波の様子、煙りの流れなど）によって階級をつけたシステム。このシステムによって風の強さを表す機械はあまりない。（0=なぎ～12=台風）

